

幼児教育学科

1年

科目名： 保育原理				担当教員 氏名： 水上 彰子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
保育とは子どもをすこやかに育てる営みである。その担い手である保育者に必要な子ども理解、保育の本質・専門性について学ぶ。特に保育の考え方やあり方はどのようなところに依拠しているかの原理を探求する。また、保育所保育指針が示す保育士の社会的役割について学ぶ						子ども観・子ども理解・保育内容と専門性・養護と教育の一体性・子育て支援
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 6. 9. 10		
A 知識・理解力		保育・教育の基礎的な知識を身につけ、保育者の役割を理解する。				
C 論理的思考力		情報や知識を複眼的、論理的に分析し、保育・教育に関わる専門性を理解しようとする意欲をもつ。				
D 問題解決力		子どもの生活に即した指導計画立案の理解と、人的・物的環境の状況把握や関係性について振り返り、問題解決に向かう考察力を養う。				
E 自己管理能力		保育者の社会的責任を理解し、期待される保育士像に向かい「私」をつくる。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 70 %	レポート： 20 %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項：						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：テスト： 8回、14回。 振り返りレポート提出。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：試験は採点し、レポートはコメント記入して返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション -保育とは何か、相手の側に立つとは-				【事後】相手の側に立つ意味を書く		
②保育の基盤としての子ども観 -子ども観と保育の内容・方法-				【事後】自分の子ども観を書く		
③子ども理解から出発する保育 -子ども理解・まなざし-				【事前】教科書第三章を読む		
④子どもが育つ環境の理解 -物的環境と人的環境との関連-				【事後】チェックリスト「教育及び保育の配慮」自己評価		
⑤保育内容・方法の理解 -保育の基本と保育内容・方法-				【事後】チェックリスト「健康」「人間関係」自己評価		
⑥子ども主体の保育内容 -子ども主体の保育内容・方法の理解-				【事後】チェックリスト「環境」「言葉」「表現」自己評価		
⑦保育の計画と実践の原理 -保育における計画の意義と位置づけ-				【事後】チェックリスト「指導計画作成の配慮」自己評価		
⑧保育の計画とその実践 -保育課程と指導計画、その関連-				【事前】中間試験指定内容の学習		
⑨健康・安全と障がいのある子どもへの対応 -障がいのある子どもの理解-				【事後】チェックリスト「障害児保育」自己評価		
⑩保育の歴史に学ぶ -西欧における集団施設の誕生と発展-				【事後】恩物で遊ぶ		
⑪保育の歴史に学ぶ -わが国における集団施設の誕生と発展-				【事後】感覚あそびの参考図書を読む		
⑫保育者に求められるもの -保育者の仕事と役割-				【事前】支え合いの子育てレポート提出		
⑬家族援助と子育て支援 -子育て支援ニーズの理解と相談援助-				【事後】チェックリスト「子育て支援」自己評価		
⑭保育の評価・苦情解決・保育者研修 -保育を自己評価するとは-				【事前】期末試験指定内容の学習		
⑮保育の現状と課題 -幼稚園・保育所・子ども園・その他の施設の現状と課題-				【事後】支え合いの子育てレポートコメントを読み振り返る		
使用テキスト：「保育原理」森上史郎・小林紀子・若槻芳浩編(ミネルバ書房)、「幼稚園教育要領・保育指針の変遷と幼保連携型認定子ども園教育保育要領の成立」(萌文書林)、保育者のための自己評価チェックリスト(萌文書林)				参考文献「0歳児～12歳児の発達と学び」清水益治・森敏昭編 北大路書房 「子どもは成長する、保育者も成長するⅠ」「Ⅱ」成田朋子 著あいり出版		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 毎回配布する新聞連載「支え合いの子育て」10枚の中で一番心に触れたテーマ記事でレポートを記述していただきます。						

幼児教育学科

1年

科目名: 教育原理				担当教員 氏名: 轟本 千種		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	1年次 前期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
教育とは何か、教育の目的、教育の理論・歴史・教育制度・評価から教育の基本的な原理について学ぶと共に、「環境を通して行う」幼児教育、「遊びを通しての指導」、今日の教育について考察し、保育者に求められる社会的責任・役割を理解し「私」づくりを進める。					教育の意義と目的、教育・保育の歴史、環境、人間形成、教育課程・保育課程、遊び	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 6. 7.	
A 知識・理解力			教育の目的、国内外の教育の理論・歴史・教育制度などを理解する。			
C 論理的思考力			「環境を通して行う」幼児教育、「遊びを通しての指導」、今日の教育について、授業で学び調べたことをもとに教育の意味や在り方を論理的に考える。			
D 問題解決力			今日求められる幼児教育・保育の在り方や保育者像について授業で学び調べたことをもとに、自分なりに考察する。			
E 自己管理能力			保育者の社会的責任・役割を理解し、求められる保育者像に向かう「私」づくりを継続する。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 30 %		発表: %	実技試験: %	その他: 20 %
特記事項: 上記の「テスト:50%」は中間・期末・定期的なミニテストで、「レポート:30%」は授業後のレポート、「その他:20%」は、授業時の参加姿勢・態度を評価する。本科目はアクティブ・ラーニングの一環として、学生が調べ、実践を構想・計画してさらに学びを深める。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第8回目、第14回目の授業、及び定期的に振り返りを実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テスト、レポート等は評価終了後返却し、その後の学び方の改善やさらに学びを深めるために活かすよう指導する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①教育を実践する者になるために				【事前】教科書(教育を実践する者になるために)を読む。		
②子どもへの理解				【事前】教科書(子どもへの理解)を読む。 【事後】②の復習		
③教育の意義と目的				【事前】教科書(教育の意義と目的)を読む。 【事後】③の復習		
④保育者の役割				【事前】教科書(保育者の役割)を読む。 【事後】④の復習		
⑤教育の歴史(Ⅰ)ー諸外国における教育の展開1 歴史と子ども観の変遷ー				【事前】教科書(教育の歴史 歴史と子ども観の変遷)を読む。		
⑥教育の歴史(Ⅱ)ー諸外国における教育の展開2 教育思想の展開ー				【事前】教科書(教育の歴史 教育思想の展開)を読む。		
⑦教育の歴史(Ⅲ)ー日本の教育の歴史1 学校教育の展開ー				【事前】教科書(教育の歴史 学校教育の展開)を読む。		
⑧教育の歴史(Ⅳ)ー日本の教育の歴史2 幼児教育の展開ー				【事前】教科書(教育の歴史 幼児教育の展開)を読む。		
⑨教育の制度ー幼稚園と保育所ー				【事前】教科書(教育の制度)を読む。 【事後】⑨の復習		
⑩教育課程・保育課程ー保育のカリキュラムー				【事前】教科書(教育課程・保育課程)を読む。 【事後】⑩の復習		
⑪遊びの指導・援助のあり方ー保育方法ー				【事前】教科書(遊びの指導・援助のあり方)を読む。 【事後】⑪の復習		
⑫自己評価から第三者評価までー保育の評価ー				【事前】教科書(自己評価から第三者評価まで)を読む。		
⑬今日の教育を考える1ー教育が抱える課題ー				【事前】教科書(教育が抱える課題)を読む。 【事後】⑬の復習		
⑭今日の教育を考える2ー幼児教育の課題と未来ー				【事前】教科書(幼児教育の課題と未来)を読む。 【事後】⑭の復習		
⑮今日の教育を考える3ー教え・育てる「大人」になるためにはー				【事前】教科書(教え・育てる「大人」になるためには)を読む。		
使用テキスト: 菱田隆昭 編 新時代の保育双書 幼児教育の原理(第2版) (株)みらい、民秋 言 編 「幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立」 (株)萌文書林				その他参考文献など: 「日本の幼稚園」(ちくま学芸文庫)上笙一郎 他、 「幼保一体化の変遷」小田豊 北大路書房		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 自分自身が受けてきた教育などを振り返りつつ、主体的に授業に参加してほしい。新聞、マスメディア等での教育・幼児教育に関する報道・社会事象に目を向け、関心を持ってほしい。配布資料は各自でファイルを用意し綴ること。						

幼児教育学科

1 年

科目名： 児童家庭福祉 I					担当教員 氏名： 杉原 哲心	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択 必修／選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
少子・高齢化社会における児童家庭福祉の意義を考え、児童家庭福祉を支援する社会福祉制度・施策の役割についてその現状と課題ならびに動向と展望について、系統立てて理解する。						社会情勢、生活保障、情操教育、育児環境
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 6. 10	
A 知識・理解力			現代社会の中での児童福祉制度が果たす役割について理解を深める。			
C 論理的思考力			制度の仕組みや相互の関係性について考察する。			
E 自己管理能力			受講内容について、その課題を客観的に整理し、まとめる力をつける。			
G 倫理観			福祉従事者を目指すものとしての児童理解を深め、倫理観を高める。			
H コミュニケーション力			授業を通して、他の者との意見交換や協調する力を培う。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 30 %		レポート： 30 %		発表： %	実技試験： %	その他： 40 %
特記事項：評価のその他は、受講態度や出席状況を勘案する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：7講目、14講目。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション、児童家庭福祉とは何か				【事前】児童福祉の方向を事前に読む		
②現代社会と児童、児童がいる家庭の変容				【事前】現代の家庭の変容について事前に考える		
③児童家庭福祉の理念、児童家庭福祉の歴史				【事前】児童についての権利保障の歴史を調べておく		
④わが国の児童家庭福祉の展開				【事前】富山県の児童福祉の歴史を調べる		
⑤諸外国の児童家庭福祉の状況				【事前】外国の福祉の実情と日本の状況を比較する		
⑥児童家庭福祉の法律、制度				【事前】児童福祉法を事前に把握しておく		
⑦振り返り				【事前】①～⑥までの復習をしておく		
⑧児童家庭福祉の体制と機関				【事前】実施の体制と関係機関の存在を調べる		
⑨少子化と子育て支援サービス				【事前】地方における身近な支援サービスを調べる		
⑩母子保健と健全育成				【事前】テキスト(母子保健)を事前に読む		
⑪児童虐待防止とドメスティックバイオレンス対策				【事前】暴力行為の原因と対応を考えておく		
⑫保育ニーズへの対応				【事前】さまざまな保育ニーズを考察する		
⑬保育・教育・療育・保健・医療等の連携とネットワーク				【事前】各分野の役割と連携を調べておく		
⑭振り返り				【事前】⑧～⑬までの復習をしておく		
⑮まとめ、児童家庭福祉の今後の課題				【事前】今後のあるべき体制を思考する		
使用テキスト： 保育士養成講座第3巻「児童家庭福祉」(全国社会福祉協議会)					その他参考文献など：	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 新聞、専門誌、マスメディア等に目を通し、児童福祉に関する社会事象に関心を持つ。						

幼児教育学科

1 年

科目名：社会福祉				担当教員氏名：宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
社会福祉の基礎的概念や日本および世界の福祉の歴史、福祉に関する法律の変遷などを学ぶことを通して、今後の福祉の方向性について考える。また、現代の福祉の現状について学び、現代社会の福祉課題について理解する。						社会福祉の概念、社会保障、社会福祉援助技術、地域福祉
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9. 10	
A 知識・理解力			社会福祉の概念、歴史、制度、技術について理解することができる。			
B 専門的技術			社会福祉現場をよりよく理解することができる。			
C 論理的思考力			社会福祉が直面している課題について深く考察することができる。			
D 問題解決力			習得した知識などを活用して、現場の問題や課題を解決する試みができる。			
G 倫理観			社会福祉専門職として求められる価値と倫理に従って行動できる。			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト：50 %		レポート：20 %		発表： %	実技試験： %	その他：30 %
特記事項： 「その他：30%」では、授業態度について評価する。 本科目では、アクティブ・ラーニングの一環として、グループワークを活用し、学生相互の理解を深める。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第8回目と第15回目。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：第8回目と第15回目に実施するテストに評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①社会福祉の基本的考え方				事前：テキストを読む 事後：①の復習		
②社会福祉の概念				事前：テキストを読む 事後：②の復習		
③社会福祉の歴史(1) 海外				事前：テキストを読む 事後：③の復習		
④社会福祉の歴史(2) 日本				事前：テキストを読む 事後：④の復習		
⑤社会福祉の法(1) 社会保障・公的扶助				事前：テキストを読む 事後：⑤の復習		
⑥社会福祉の法(2) 社会福祉法				事前：テキストを読む 事後：⑥の復習		
⑦社会福祉の法(3) 社会保障の関連制度				事前：テキストを読む 事後：⑦の復習		
⑧社会福祉の機関と施設 中間振り返り				事前：①～⑦の復習		
⑨社会福祉援助の意味				事前：テキストを読む 事後：⑨の復習		
⑩社会福祉の援助方法				事前：テキストを読む 事後：⑩の復習		
⑪社会福祉援助の専門性とは				事前：テキストを読む 事後：⑪の復習		
⑫地域福祉の概念				事前：テキストを読む 事後：⑫の復習		
⑬利用者の権利擁護				事前：テキストを読む 事後：⑬の復習		
⑭社会福祉の担い手				事前：テキストを読む 事後：⑭の復習		
⑮これからの社会福祉の動向 まとめ				事前：⑧～⑭の復習		
使用テキスト： 新保育士養成講座第4巻「社会福祉」全国社会福祉協議会				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 日頃から新聞・テレビなどを通して、社会福祉関連のニュースに関心を持ってください。						

幼児教育学科

1 年

科目名: 相談援助				担当教員 氏名: 清水 剛志		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
1	1年次 後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
保育とソーシャルワークを意識する。現在の子どもを取り巻く環境に注目し、相談援助の理念、技術を用いて対応することを考える。多職種協働の重要性について考える。					エコロジカル 家族 エンパワメント ストレングス	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 9. 10		
A 知識・理解力		相談援助の基礎的な知識を習得する。				
B 専門的技術		相談援助の方法と技術について習得する。				
F チームワーク・リーダーシップ		多様な専門職の連携について対応できる力を養う。				
H コミュニケーション力		自己を覚知し、他者を理解することからコミュニケーション力を養う。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験: %
その他: 50 %						
特記事項: 7回目の授業までの授業態度にて中間評価。最終のレポートを含めて総合評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 最後の講義時にレポート提出。授業態度にて評価する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①保育と社会福祉						
②保育士とソーシャルワーク				【事後】事例に関する感想や気付き等をまとめ提出する。		
③相談援助の理論				【事後】事例に関する感想や気付き等をまとめ提出する。		
④相談援助の意義				【事後】事例に関する感想や気付き等をまとめ提出する。		
⑤相談援助の機能				【事後】事例に関する感想や気付き等をまとめ提出する。		
⑥相談援助とソーシャルワーク				【事後】事例に関する感想や気付き等をまとめ提出する。		
⑦児童福祉と幼児教育(福祉と教育)				【事後】事例に関する感想や気付き等をまとめ提出する。		
⑧中間振り返り				レポート		
⑨相談援助の方法と技術 相談援助の対象 地域				【事後】事例に関する感想や気付き等をまとめ提出する。		
⑩相談援助の方法と技術 相談援助の過程 個人、家庭、グループ				【事後】事例に関する感想や気付き等をまとめ提出する。		
⑪相談援助の方法と技術 相談援助の過程 地域				【事後】事例に関する感想や気付き等をまとめ提出する。		
⑫相談援助の方法と技術 相談援助の技術・アプローチ				【事後】事例に関する感想や気付き等をまとめ提出する。		
⑬相談援助の具体的展開 関係機関との協働				【事後】事例に関する感想や気付き等をまとめ提出する。		
⑭相談援助の具体的展開 多様な専門職との連携、社会資源の活用				【事後】事例に関する感想や気付き等をまとめ提出する。		
⑮自己を覚知し、他者を理解することからコミュニケーション力を養う。まとめ				レポート		
使用テキスト: 相談援助(建帛社)				その他参考文献など: 中央法規 家庭支援論		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

1 年

科目名: 保育の心理学 I				担当教員 氏名: 石津 孝治		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
保育実践に必要な心理学の知識を習得する。特に、子どもの発達にかかわる心理学の基礎的知識、子どもが人とのかかわりの中で発達すること、等に重点を置く。また、生涯発達と初期経験の重要性についても学ぶ。						・発達 ・認知 ・社会性 ・生涯発達
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		5. 6. 7. 9.	
A 知識・理解力			各側面から乳幼児の発達を理解できる。			
C 論理的思考力			発達を多面的に捉えることができる。			
G 倫理観			子どもが育つための大人(保育者)の重要な役割と責任について理解できる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 100 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: テストについては、1回目が30%、2回目が70%。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 7回、15回						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストを採点し返却						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①保育と心理学について。乳児期の知覚1(新生児や乳児期の視覚機能について学ぶ)				[事後]①の復習		
②乳児期の知覚2(乳児期の聴覚について学ぶ)				[事後]②の復習		
③乳児期の認知について学ぶ				[事後]③の復習		
④愛着の発達(愛着の発達や大人との関係性について学ぶ)				[事後]④の復習		
⑤乳児の対人関係や指差しの意味などについて学ぶ				[事後]⑤の復習		
⑥乳児の個人差(「気質」の概念から個人差について学ぶ)				[事後]⑥の復習		
⑦前半のまとめ				[事前]①から⑥の復習		
⑧かかわりの中での発達(1)(共感と力動感)				[事後]⑧の復習		
⑨かかわりの中での発達(2)(応答関係と子どもを認めること)				[事後]⑨の復習		
⑩幼児期の遊び(1)(遊びのおもしろさと発達について学ぶ)				[事後]⑩の復習		
⑪幼児期の遊び(2)(遊びの中の学びについて)				[事後]⑪の復習		
⑫幼児期の遊び(3)(遊びの援助について学ぶ)				[事後]⑫の復習		
⑬児童期、青年期の発達について学ぶ				[事後]⑬の復習		
⑭成人期、老年期の発達について学ぶ				[事後]講義内容全体の復習		
⑮まとめ						
使用テキスト:				その他参考文献など: 「子どもとかかわる人のための心理学」沼山博 他編(萌文書林)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

1年

科目名： 保育の心理学Ⅱ				担当教員 氏名： 石津 孝治		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
1	1年次 後期	専門科目	演習	選択必修 11単位中 6単位以上	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
子どもの心身の発達と保育実践についての理解を深める。また、子どもが遊びを通して学ぶことや、発達援助の観点から見た保育実践について学ぶ。					・発達の理解 ・遊び ・発達援助	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7.	
A 知識・理解力		各年齢の発達段階について保育実践と関連付けて理解できる。				
C 論理的思考力		発達における多面的な側面から子どもを捉え、理解できる。				
D 問題解決力		課題のテーマに沿ってレポートなどをまとめることができる。				
H コミュニケーション力		課題のテーマに沿った発言や討論ができる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %	レポート: 60 %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項:アクティブラーニングの一環として、授業の素材だけではなく、他の資料等も読み込んだうえでの発達過程表作成を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:4回目、8回目、15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:課題(0~2歳児の発達過程表、3歳~5歳の発達表)を返却						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①子ども理解における発達の把握(1)(0歳児前半の発達を理解する)				[事後]①の復習		
②子ども理解における発達の把握(2)(0歳児前半の発達を理解する)				[事後]②の復習		
③子ども理解における発達の把握(3)(1歳児の発達を理解する)				[事後]③の復習		
④子ども理解における発達の把握(4)(2歳児の発達を理解する)				[事後]④の復習		
⑤0~2歳児の発達過程表の作成(1)(各自文献などを調べ構想する)				[事後]⑤の復習		
⑥0~2歳児の発達過程表の作成(2)(作成する)				[事後]⑥の復習		
⑦子ども理解における発達の把握(5)(3歳児の発達を理解する)				[事前]⑦の復習		
⑧子ども理解における発達の把握(6)(4歳児の発達を理解する)				[事後]⑧の復習		
⑨子ども理解における発達の把握(7)(5歳児の発達を理解する)				[事後]⑨の復習		
⑩3~5歳児の発達過程表作成				[事後]⑩の復習		
⑪子どもの支援の方法について学ぶ				[事後]⑪の復習		
⑫子どもの支援の具体例について学ぶ				[事後]⑫の復習		
⑬環境としての保育者について学ぶ				[事後]⑬の復習		
⑭「自我の発達、人とかかわりの発達」から子どもを理解する。(自己主張と自己統制)				[事後]講義内容全体の復習		
⑮全体のまとめ。						
使用テキスト:				その他参考文献など: 「子どもとかかわる人のための心理学」沼山博他編(萌文書林)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

1 年

科目名: 子どもの保健 I - ①				担当教員 氏名: 林 さつき、尾島 悦子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	選択必修 11単位中 6単位以上	保育士資格指定科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
子どもの健康が保持・増進されるのを保障し、その実現をめざすための基礎知識・技術を学ぶ。また、現代の子どもの家族の特徴及びその環境を広い視点から理解し、子どもが健やかに育つための援助を専門的に学習する。						・子どもの健康 ・子どもの発達 ・健康支援
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		2. 5. 6. 9. 10	
A 知識・理解力			生命の保護と情緒の安定を図る保育における子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を学ぶ。			
B 専門的技術			今日、発生している子どもの心身の健康問題の原因が、養育環境や養育方法にあることを認識し、それらの問題への対処法を理解する。			
C 論理的思考力			子どもの健康状態を、個人生活と保育生活等の集団生活で理解する。			
D 問題解決力			子どもの疾病異常や事故の特徴とその予防について理解し、さらに緊急時の基礎的対応を理解する。			
B 専門的技術			子どもの健康が家庭や地域と密接な関係があることを認識し、家庭や地域との連携を通じた保健活動の重要性を理解する。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %		レポート: 20 %		発表: 10 %		実技試験: % その他: 10 %
特記事項: 全ての授業にアクティブ・ラーニングを取り入れ、学んだ知識を使う体験を行う。特に授業計画④⑩は重点的に行う。その他10%は、授業、グループワークの参加態度による。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜小テストを行い、前期、後期の最終講義時間に試験を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 【林】毎回授業の感想カードへの返答。テスト実施時、内容解説と答え合わせ						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
①【林】授業ガイダンス(子どもの保健の守備範囲)					4月6日 [事後]①の復習	
②【林】子どもの健康と保健(生命の保持と情緒)					4月13日 [事後]②の復習	
③【林】子どもの健康と保健(健康の概念と健康指標)					4月20日 [事後]③の復習	
④【林】子どもの健康と保健(地域の保健活動と児童虐待防止)					4月27日 [事後]④の復習	
⑤【林】子どもの発育・発達と保健(子どもの身体発育の特徴)					5月11日 [事後]⑤の復習	
⑥【林】子どもの発育・発達と保健(子どもの身体発育と保健)					5月18日 [事後]⑥の復習	
⑦【林】前期中間評価およびまとめ					5月25日 [事後]⑦の復習	
⑧【尾島】子どもの発育・発達と保健(運動機能・精神機能の発達)					6月1日 [事後]⑧の復習	
⑨【尾島】子どもの疾病と保育(子どもの疾病の特徴とその種類)					6月8日 [事後]⑨の復習	
⑩【尾島】子どもの疾病と保育(子どもの疾病の予防と対応)					6月15日 [事後]⑩の復習	
⑪【尾島】子どもの精神保健(子どもの生活環境と精神保健)					6月22日 [事後]⑪の復習	
⑫【尾島】環境および衛生管理ならびに安全管理(保育現場の衛生管理、事故防止、安全対策)					6月29日 [事後]⑫の復習	
⑬【林】前期評価およびまとめ					7月6日 [事後]⑬の復習	
⑭【林】グループワーク(子どもの健康づくり(討議))					7月13日	
⑮【林】グループワーク(子どもの健康づくり(発表))					7月20日	
使用テキスト: 新 保育士養成講座第7巻「子どもの保健」 《全国社会福祉協議会》					その他参考文献など: 子どもの保健演習ブック(ミネルヴァ書房)、保育園の保健のしごと(東社協保育士会保健部会)	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業では子どもの保健のほか親や保育士自身の健康についても関心をもってもらいたい。また、グループワークを取り入れ、他の人の意見を聞き、話し合うことにより課題を取りまとめる手法を学んでほしい。						

幼児教育学科

1 年

科目名: 子どもの保健 I - ②					担当教員 氏名: 林 さつき、尾島 悦子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門科目	講義	選択必修 11単位中 6単位以上	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
子どもの健康が保持・増進されるのを保障し、その実現をめざすための基礎知識・技術を学ぶ。また、現代の子どもの家族の特徴及びその環境を広い視点から理解し、子どもが健やかに育つための援助を専門的に学習する。					<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康 ・子どもの発達 ・健康支援 	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 9. 10		
A 知識・理解力	生命の保護と情緒の安定を図る保育における子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を学ぶ。					
B 専門的技術	今日、発生している子どもの心身の健康問題の原因が、養育環境や養育方法にあることを認識し、それらの問題への対処法を理解する。					
C 論理的思考力	子どもの健康状態を、個人生活と保育生活等の集団生活で理解する。					
D 問題解決力	子どもの疾病異常や事故の特徴とその予防について理解し、さらに緊急時の基礎的対応を理解する。					
B 専門的技術	子どもの健康が家庭や地域と密接な関係があることを認識し、家庭や地域との連携を通じた保健活動の重要性を理解する。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %	レポート: 20 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他 10 %		
特記事項: 全ての授業にアクティブ・ラーニングを取り入れ、学んだ知識を使う体験を行う。特に授業計画③⑤⑥⑨⑪を重点的に行う。 その他10%は、授業、グループワークの参加態度による。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜小テストを行い、前期、後期の最終講義時間に試験を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 【林】毎回授業の感想カードへの返答。テスト実施時、内容解説と答え合わせ						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【尾島】健康および安全の実施体制(職員間の連携や専門機関との連携)				9月7日	【事後】①の復習	
②【尾島】保健活動の計画および評価(保健計画の作成と活用)				9月14日	【事後】②の復習	
③【尾島】保健活動の計画および評価(保健計画の作成と活用)				9月21日	【事後】③の復習	
④【林】子どもの保健と環境(子どもの生活環境と心身の健康づくり)				9月28日	【事後】④の復習	
⑤【林】子どもの疾患と適切な対応(体調不良や傷害が発生した場合の対応)				10月12日	【事後】⑤の復習	
⑥【尾島】子どもの疾患と適切な対応(感染症の予防と対応)				10月19日	【事後】⑥の復習	
⑦【林】後期中間評価およびまとめ				10月26日	【事後】⑦の復習	
⑧【林】子どもの疾患と適切な対応(個別対応を必要とする子どもへの対応)				11月2日	【事後】⑧の復習	
⑨【林】子どもの疾患と適切な対応(乳児への適切な対応、障害のある子どもへの対応)				11月9日	【事後】⑨の復習	
⑩【尾島】事故防止および健康安全管理(事故防止、安全管理の取り組み)				11月30日	【事後】⑩の復習	
⑪【林】事故防止および健康安全管理(救急処置の習得)				12月7日	【事後】⑪の復習	
⑫【林】心と身体の健康問題と地域保健活動(心と身体の健康づくり)				12月14日	【事後】⑫の復習	
⑬【林】心と身体の健康問題と地域保健活動(母子保健対策と保育)				12月21日	【事後】⑬の復習	
⑭【林】後期のまとめ				1月18日	【事後】⑭の復習	
⑮【林】前期および後期のまとめ				1月25日	【事後】⑮の復習	
使用テキスト: 新 保育士養成講座第7巻「子どもの保健」《全国社会福祉協議会》				その他参考文献など: 子どもの保健演習ブック(ミネルヴァ書房)、保育園の保健のしごと(東社協保育士会保健部会)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業では子どもの保健のほか親や保育士自身の健康についても関心をもってもらいたい。また、グループワークを取り入れ、他の人の意見を聞き、話し合うことにより課題を取りまとめる手法を学んでほしい。						

幼児教育学科

1年

科目名：子どもの保健Ⅱ				担当教員 氏名：水上彰子、炭谷靖子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択必修／選択	備考	
1	1年次 後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
乳幼児の心とからだの健康管理及び、保育中の生命と健康を守るための知識や技術習得の科目である。小児期から生涯にわたる健康づくりの基礎を学ぶとともに、知識・技術習得のためのグループ学習を通して、保育士間の連携(協働)する力を養う。					保健的生活、小児保健、生活援助技術、保育士間の連携(協働)	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 9.		
A 知識・理解力		子どもの心身の発達及び健康管理について知識を身につける。				
A 知識・理解力		乳幼児の生命と健康を守るため、生活の援助技術を習得し活用できる。				
C 論理的思考力		習得した知識や技術を理論に照らし合わせ、状況や関係を把握して考えることができる。				
F チームワーク・リーダーシップ		他者との信頼関係を築き、協調、協働して行動できる「私」になる。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 50 %	レポート： 30 %	発表： 20 %	実技試験： %	その他： %		
特記事項：本科目はアクティブ・ラーニングの一環として、グループワークの発表や学生同士のディベートを実施する。授業計画⑤・⑬・⑭回目。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：テスト：7回目、15回目。グループ学習は「まとめ冊子」を作成しその成果を発表する。						
課題に対するフィードバック：試験は返却時に解説する。グループ学習で作成したマップ、原稿は冊子にして返却・発表・解説する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ガイダンス 子どもの保健と保育者の保健－健康管理、保健管理－				【事後】手洗いチェックリスト振り返る		
②子どもの保健と母子保健－母子保健の意義、母乳、人口乳、離乳食－				【事前】新聞記事内容のまとめ		
③集団保育における保健－集団保育と安全－				【事後】グループ「安全マップ」作成		
④乳幼児の養護－抱く、おんぶ、排泄、衣類着脱の援助－				【事前】「安全マップ」提出 【事後】衣服着脱ポイントのまとめ		
⑤集団保育の概念－集団保育と安全、災害対策、感染症対策－				【事前】「安全マップ」発表準備		
⑥乳幼児の整理機能、精神機能の発達評価の理解				【事後】ワークシート言葉の発達確認		
⑦中間試験、乳幼児の運動機能の発達評価				【事後】運動発達の一般原則まとめ		
⑧乳幼児の身体計測－計測の意義と方法の習得－				【事後】身体計測意義のまとめ		
⑨乳幼児の歯の健康と生活習慣－虫歯の現状とケア－				【事後】虫歯予防ポイントのまとめ		
⑩乳幼児の身体の清潔－沐浴の実際－				【事後】フーフーフード沐浴ポイント確認		
⑪乳幼児の異常症状の手当、怪我、事故の応急手当て				【事後】グループ「発見、観察・手当てのポイント」原稿作成		
⑫心肺蘇生法－乳幼児の一次救命処置－				【事前】「発見・観察、手当て」原稿提出		
⑬乳幼児の異常症状と手当－症状別手当の実際－				【事前】異常症状発表準備		
⑭乳幼児の事故と手当－症状別応急手当の実際－				【事前】怪我・事故発表準備		
⑮期末試験、保育における環境衛生－保育室の環境・衛生－				【事前】子どもの保健Ⅱの復習		
使用テキスト： 子どもの保健演習ガイド 高内正子 編著(建帛社)				その他参考文献など： 資料適宜配布		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 年間通じたワークシートを使用し、事前・事後の学習が繋がりをもって学ぶ機会になることを期待します。						

幼児教育学科

1 年

科目名：教育課程総論				担当教員氏名： 轟本 千種		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
幼稚園や保育所は、人格形成の基礎を培う場、「生きる力の基礎となる心情・意欲・態度など」を育てる場であり、子どもたちにとっては「楽しい園生活」でなければならない。子どもたちの幸せを目指す保育実践を進めるための教育課程・保育課程編成の理論、指導計画の作成、指導計画の実際、歴史的な変遷について基本を学ぶ。					保育の基本と指導計画、教育課程、保育課程、長期の指導計画と短期の指導計画	
tyoukino						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7.		
A 知識・理解力		保育にかかわる計画についての理論の基本を理解する。				
C 論理的思考力		計画の作成の実際と指導計画の実際について考える力を身につける。				
H コミュニケーション力		学んだことをグループ討議などで発表し、理解し合う姿勢を身につける。				
F チームワーク・リーダーシップ		行事の企画・運営・準備・実践を通して、他者と協力・協働しながら保育者のあり方を学ぶ。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 60 %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： 40 %		
特記事項： 上記の「その他:40%」の部分では、授業での参加姿勢・態度、クリスマス会の取り組みを授業時のミニレポートも含め評価する。 本科目は、アクティブ・ラーニングの一環として第⑨・⑩・⑪回で、クリスマス会について実際に計画・準備・実践を保育所の子どもたちと体験し発表・実技試験等の実施時期：定期的なミニテストと第7回目、第14回目の授業での振り返りを実施する 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：ミニテスト、中間、期末の振り返りを評価終了後返却し、その後の学びに生かすよう指導する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①教育課程とは				【事後】①の復習		
②様々な教育課程～歴史を学ぶ				【事後】②の復習		
③幼稚園の教育課程とは				【事後】③の復習		
④保育所の保育課程とは				【事後】④の復習		
⑤幼稚園・保育所の生活と幼児理解				【事後】⑤の復習		
⑥教育課程・保育課程、指導計画を考える上で共通に必要なこと				【事後】⑥の復習		
⑦保育課程、指導計画を考える上で必要なこと				【事後】⑦の復習		
⑧教育課程の編成から長期の指導計画へ				【事後】⑧の復習		
⑨指導計画の実際(1) クリスマス会の計画				【事後】⑨の復習		
⑩指導計画の実際(2) クリスマス会の準備				【事後】⑩の復習		
⑪指導計画の実際(3) クリスマス会の実践				【事後】⑪の復習		
⑫短期の指導計画の作成				【事後】⑫の復習		
⑬保育課程を編成し、指導計画を作成する				【事後】⑬の復習		
⑭指導計画の実践				【事後】⑭の復習		
⑮教育課程・指導計画のPDCAサイクル				【事後】⑮の復習		
使用テキスト:松村和子 近藤幹生 椛島香代 著 教育課程・保育課程を学ぶ—子どもの幸せをめざす保育実践のために— ななみ書房				その他参考文献など:「解説&実例アドバイス 幼稚園教育要領ハンドブック」2008告示版 学研、 「解説&実例アドバイス 保育所保育指針ハンドブック」2008告示版 学研		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):学習課題に対して自分の考えが持てるよう、主体的に授業に参加してほしい。・随時資料を配布する。ファイルをして保管し、毎回授業時に持参すること。						

幼児教育学科

1年

科目名：保育内容総論				担当教員 氏名：高見泰子、藤井徳子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
1	1年次 後期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」を踏まえ、幼稚園や保育所などにおいて展開される保育内容について総合的に学ぶ。更に、保育内容の概要、歴史的変遷、発達のとらえ方、遊びの意味、環境を通した総合的な援助など、保育内容の基本的な考え方について考察を深める。					・保育内容 ・発達 ・遊びの意味 ・総合的 ・環境	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (短短マトリックスで示される番号)		6. 8. 9.	
A 知識・理解力		「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を踏まえた保育の内容を理解する。				
C 論理的思考力		保育内容を、実践に即して総合的にとらえる視点をもつ。				
A 知識・理解力		発達に即した遊びの意味を理解する。				
B 専門的技術		環境を通した総合的な援助や保育内容の相互関連性を、実践を通して理解する。				
F チームワーク・リーダーシップ		行事を企画・運営することを通して、他者と協同・協働しながら保育者として動くことを意識する。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 30 %		レポート： 20 %		発表： 30 %		実技試験： % その他： 20 %
特記事項： 期末試験30%、レポート20%とする。行事に向けての取り組み(計画・準備・実践を含む)への評価30%、授業への取り組みや受講態度等20%に対して評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第15回に期末試験を実施する。レポートは、随時の課題を提示する。第8～12回に保育所の5歳児を招待したクリスマス会を企画・準備し、第12回を発表の機会とする予定(保育所の予定に合わせて時期を変更する可能性がある)。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：テストや提出レポートにコメントを記載して返却するとともに次の授業でフィードバックする。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【高見】保育内容の基本と歴史的変遷				【事後】①の復習		
②【高見】「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」と保育のねらいと内容				【事前】教育要領や保育指針を見とく 【事後】②の復習		
③【高見】教育課程・指導計画と実践・評価・改善				【事後】③の復習		
④【高見】遊び的(自由な遊び・設定保育など)な活動の意義と実践 校外園見学				【事後】④の復習 見学で学んだことをまとめておく		
⑤【高見】生活の営み(当番活動・片づけなど)にかかわる活動の意義と実践 校外園見学振り返り				【事後】⑤の復習 見学で学んだことをまとめておく		
⑥【高見】子どもの育ちを支える保育者のあり方				【事後】⑥の復習		
⑦【高見】行事(運動会・発表会・誕生会など)にかかわる活動の意義と実践				【事後】⑦の復習		
⑧【藤井】保育内容と計画				【事後】⑧の復習		
⑨【藤井】保育の展開と保育方法 (1)行事の企画・立案を中心に				【事後】⑨の復習		
⑩【藤井】保育の展開と保育方法 (2)行事に向けて準備することを中心に				【事後】⑩の復習		
⑪【藤井】保育の展開と保育方法 (3)行事を運営することを中心に				【事後】⑪の復習		
⑫【藤井】保育の展開と保育方法 (4)行事を運営し評価・反省することを中心に				【事後】⑫の復習		
⑬【高見】保育における観察と記録 (3・4・5歳児の保育指導案作成)				【事後】⑬の復習		
⑭【高見】保育の現状と課題				【事後】⑭の復習		
⑮【高見】まとめ				【事後】⑮の復習		
使用テキスト： ①文部科学省 2008 『幼稚園教育要領解説』<フレーベル館> ②厚生労働省 2008 『保育所保育指針解説書』<フレーベル館>				その他参考文献など： 「保育内容総論」民秋言、吉村真理子 「保育内容総論」大豆生田啓友、柴崎正行		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 子どもの姿(生活の様子、遊びの様子など)をどのようにとらえ、どのようにかわり援助を実践するかを考えてみて下さい。保育援助のおもしろさと奥深さを知る授業にしていきたいと思います。 授業内容をきちんとノートし、配布資料は分類してファイリングしておいて下さい。						

幼児教育学科

1 年

科目名: 保育内容(健康 I)				担当教員 氏名: 小川 耕平		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	演習	選択必修 5単位中 3単位以上	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
前半は、健康づくり全般に関する基礎知識の獲得と、自らの健康づくりに関する意識の向上と日々の実践について考える。後半は、幼児と青年の違いや幼児の発育特性に応じた健康づくりについて考える。						・健康作り ・遊び ・発育特性
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			健康づくりに必要な知識について理解する			
B 専門的技術			幼児の発育発達に応じた運動について理解する			
E 自己管理能力			自らの健康管理について考える			
H コミュニケーション力			コミュニケーション能力向上のための手法を学ぶ			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 80 %		レポート: 20 %		発表: %	実技試験: %	その他: %
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 毎回のノートの提出とミニテストの実施により対応する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション・健康クイズ				事後: 自身の健康を見つめる		
②健康づくり施策について(健康日本21第2次)				事後: 国の健康づくりについて理解する		
③健康づくりの3大原則				事後: 健康3原則の実践		
④健康づくりについて(幼児期~青年期)				事後: 幼児~青年の健康について理解する		
⑤健康づくりについて(中高年~高齢者)				事後: 中高年の健康について理解する		
⑥幼児の健康と脳の発達				事後: 脳の仕組みについて理解する		
⑦幼児のやる気を育てる				事後: 動機づけについて理解する		
⑧中間評価とまとめ				事後: ミニテストの振り返り		
⑨幼児の体格と姿勢について				事後: 幼児の体と姿勢について理解する		
⑩幼児の体温調節機能について				事後: 幼児の体温調節について理解する		
⑪幼児の心の健康づくり				事後: 幼児のストレスについて理解する		
⑫幼児の健康・体力の状況について				事後: 幼児の健康・体力について理解する		
⑬幼児の健康づくりのための運動遊び①				事後: 幼児期に必要な運動遊びを理解する		
⑭幼児の健康づくりのための運動遊び②				事後: 幼児期に必要な運動遊びを理解する		
⑮振り返りとノート確認				事後: 健康Ⅱにつなげるための振り返り		
使用テキスト: 必要に応じてプリント配布				その他参考文献など: ・子どものころとからだを強くする(市村出版) ・保育内容(健康)(光生館)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

1 年

科目名: 保育内容(言葉)				担当教員 氏名: 若山 育代					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考			
1	1年次	前期	専門科目	演習	選択必修 5単位中 3単位以上	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
授業科目の学習教育目標の概要: 子どもの発達を「言葉」の領域の観点から捉え、それに基づいて保育内容について具体的に学ぶ。						キーワード 言葉 発達 援助			
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7.				
A 知識・理解力			乳幼児の発達を言葉の領域からとらえて、乳幼児期の発達に即した言葉を育てる援助を提案する。						
B 専門的技術			総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断を習得する。						
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	100 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項:									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 15回目の講義から1週間以内に指示したレポートを提出する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 小レポート及びレポートはチェック後返却します。									
授 業 計 画				事前・事後の学習課題					
①オリエンテーション と 乳幼児期の言葉の発達の知識				小レポート・事後の復習					
②絵本の読み聞かせ(この日までに絵本を1冊選んでくる)と相互評価				絵本についての事後学習					
③乳幼児期の言葉の発達の知識を絵本の実践にどう活かすか?				言葉の発達についての発展学習					
④総合的な保育の展開に絵本をどう使うか?、ポートフォリオ相互鑑賞				ポートフォリオの振り返り					
⑤紙芝居の演じ方(この日までに紙芝居を1本選んでくる)と相互評価				紙芝居についての事後学習					
⑥乳幼児期の言葉の発達の知識を紙芝居の実践にどう活かすか?				言葉の発達についての発展学習					
⑦総合的な保育の展開に紙芝居をどう使うか?、ポートフォリオ相互鑑賞				ポートフォリオの振り返り					
⑧パネルシアター作り(道具・材料を持参する)				教材準備					
⑨パネルシアターの発表と相互評価				発表の振り返り					
⑩乳幼児期の言葉の発達の知識をパネルシアターの実践にどう活かすか?				パネルシアターについての事後学習					
⑪総合的な保育の展開にパネルシアターをどう使うか?、ポートフォリオ相互鑑賞				ポートフォリオの振り返り					
⑫エブロンシアター作り(道具・材料を持参する)				教材準備					
⑬エブロンシアターの発表と相互評価				発表の振り返り					
⑭乳幼児期の言葉の発達の知識をエブロンシアターの実践にどう活かすか?				言葉の発達についての発展学習					
⑮総合的な保育の展開にエブロンシアターをどう使うか?、ポートフォリオ相互鑑賞				ポートフォリオの振り返り					
使用テキスト:				その他参考文献など: 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説書					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 初回の講義で留意点についての資料を配布します。									

科目名: 保育内容(身体表現)				担当教員 氏名: 清水 美和子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	演習	選択必修 5単位中 3単位以上	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
子どもの感性と意欲を引き出す、音楽を使った身体表現活動を体験する。1. 心を開いて感じることを大切に、心豊かに反応・表現できる 2. 保育場面に応じた表現方法を学習する 3. 人間としての温かいふれあいのできる指導者をめざす。						パネパネのリズム、からだの中心、感じる力と反応する力、からだの動きで人と交わる
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10	
A 知識・理解力			幼児期の発育発達を促す、様々な表現活動の方法を身につける。			
B 専門的技術			子どもの感性と輝きを引き出す表現方法や創作法を理解し、工夫できる。			
E 自己管理能力			自立した態度で授業に臨み、学習目標を理解し、達成する。			
F チームワーク・リーダーシップ			チームで役割を分担し、チームに参画する力を身につける。			
D 問題解決力			運動指導中に起こる問題について、考え、解決方法を検討する。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 30 %	発表: 10 %	実技試験: 40 %	その他: 20 %		
特記事項:						
授業内発表・実技試験・レポート提出の実施:各授業終了時には毎回の活動を記録し、レポート作成の助けとする。また実技では、内容や技術が身につくよう授業内の発表評価を重視する。活動の取り組みに対する意欲や態度・出欠なども評価対象。						
中間試験:評価コメントを本人に渡す。期末試験:学生の相互評価(後半レポート)を交換させる。レポートは授業時に返し、フィードバックする。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション				ビートに乗る		
②コミュニケーションのあそび 1				新しい仲間となかよしになる		
③コミュニケーションのあそび 2				呼びかけと返事		
④コミュニケーションのあそび 3				いろいろなステップで		
⑤小道具を使って動きを引き出す 1				タオルを使って		
⑥小道具を使って動きを引き出す 2				ボール・ゴムを使って		
⑦小道具を使って動きを引き出す 3				お手玉を使って		
⑧小道具を使って動きを引き出す 4				新聞紙を使って		
⑨中間試験				実技とレポート提出		
⑩音楽の選択				楽曲の構成・テンポ・テーマ		
⑪動きが生まれる 1				模倣 ~ 創作		
⑫動きが生まれる 2				動きでおしゃべり ~ 創作		
⑬動きが生まれる 3				自由に踊れる ~ 創作		
⑭期末試験 1				発表会		
⑮期末試験 2				発表会とレポート提出		
使用テキスト: 必要に応じて資料を配布する				その他参考文献など: 「美二三枝子のダンス・セラピー」美二三枝子著・大修館書店		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 運動できる服装(素足・ストッキング不可。装飾品は怪我につながるので外すこと。) 持ち物 ; 雑巾1枚(毎時間使う)・・・最初の授業で集める / 筆記用具・A4ファイル・フェイスタオル(毎回持つてくる)						

幼児教育学科

1 年

科目名: 保育内容(音楽表現)				担当教員 氏名: 國分 二三子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
色々な音への興味を持ち、日常的な音やリズム(言葉)で表現する楽しさを発見する。また、それらを演習(体験)することによって、実際的な子ども理解を深め、様々な音楽表現活動を実践するための方法を習得(考案)する。普段の保育から発表へ繋げる手法を学ぶ。						・言葉とリズム・音の持つ力(協調性・安心感・安定感・集中力・自己確立・生活力・身体機能維持発達促進etc.)脳と音楽・創造性
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			自分自身が演習することによって、様々な対象となる子どもを理解し、日常使う言葉や動作を使って、相手に合わせた対処法を創案できる力(知識)を培う。			
B 専門的技術			安定した心地良いビートから生まれる安心感の中で演習し、他分野との関連を考えながら、子どもの感性を育み表現するための専門技法を学ぶ。			
E 自己管理能力			日常の音に興味を持ち、音やリズム(言葉)に合わせて表現する楽しさを演習することによって、自己管理能力を促進する。			
F チームワーク・リーダーシップ			音やリズム(言葉)で感じたことを表現する楽しさの中で、自然に他者との信頼関係を築き、協力(仲間意識)して、お互いを思いやりながら積極的に活動する。			
H コミュニケーション力			相手の音やリズム(言葉)の表現に接することにより、相手の立場や考えが理解できるようになり、子ども&保護者とのコミュニケーションをとることができる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %		レポート: %		発表: 40 %		実技試験: 0 %
その他: 20 %						
特記事項: 各自の経験により、スタート時の能力は様々だと思います。故に、どこまで到達したかという結果は勿論ですが、授業への取り組み方(受講意欲及び、態度・姿勢をその他20%とする)や自己能力向上率を最重視します。集中して自己能力(脳力)アップに努めてください。アクティブラーニングの一環として随時グループディスカッションやグループワークを行い、各自自動的に発表し演習します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 7回目・15回目でペーパーテスト、随時、実践や発表を行う予定です。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストは採点し返却する。実践や発表はその都度コメントします。						
授 業 計 画						
①音への興味を育てようⅠ: 色々な音探し			【事後】まわりの音を探す			
②音への興味を育てようⅡ: 音マップ・楽器作りetc			【事前】楽器を作る			
③音のするもので遊ぼう: 音と仲良くなろう			【事後】活動を復習する			
④音のするもので遊ぼう: 色々なゲーム(リトミック)			【事後】活動を復習する			
⑤音のするもので遊ぼう: 絵本で音楽遊び			【事後】いろいろな絵本で実践する			
⑥音のするもので遊ぼう: 音のある劇遊び			【事前】教科書P32~36を読む			
⑦楽器の名前や演奏についてのペーパーテスト			【事前】楽器名や使い方等覚える			
⑧音楽表現遊びの進め方Ⅰ: 基本ステップ			【事後】活動を復習する			
⑨音楽表現遊びに進め方Ⅱ: 応用			【事後】活動を復習する			
⑩身体を打楽器にして遊ぼう: たたいてまねっこetc			【事前】教科書(パート3)を読む			
⑪ボディパであそぼ			【事前】教科書(パート4)を読む			
⑫合奏しよう: ボディパーカッションでの合奏			【事後】活動を復習する			
⑬紙芝居に音をつけて遊ぼう			【事後】いろいろな紙芝居で実践する			
⑭かんたん編曲法(合奏)			【事前】教科書(パート6)を読む			
⑮まとめの総合ペーパーテスト			【事前】授業全体の活動を確認する			
使用テキスト: わくわく音遊びでかんたん発表会				その他参考文献など: 「リズム&ゲームにどっぴり! リトミック77選」(明治図書) / 「子どもに大人気 手あそび指あそび」(ドレミ楽譜)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 動きやすい服装・調節可能な服装やヒールの低い安全な履物で参加して下さい。						

幼児教育学科

1 年

科目名：乳児保育 I				担当教員 氏名：尾島 悦子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
乳児期は、人としての基礎を培う大切な時期と言われます。3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな生活と遊びについて理解する。また、乳児期の子どもへの大人のかかわり方について考え、その重要性を認識する。乳児保育 I では、乳児保育の保育環境・家庭環境や、乳児の生活面・健康面について重点的に学ぶ。						命・乳児・家族・家庭 保育・生活・遊び・環境
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 6. 9. 10	
A 知識・理解力			子どもの心身の発達および健康管理についての知識を身につける。			
B 専門的技術			乳児や障害児も含め、様々な対象の子どもに対する保育・教育の内容、方法や計画に関する知識を身につける。			
E 自己管理能力			自らを律して行動できる。			
F チームワーク・リーダーシップ			他者と信頼関係を築き、目標実現のため協力し共に育ちあうことができる。			
H コミュニケーション力			言語や身体を用いて自己・他者の理解を深めるコミュニケーションができる。			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 60 %		レポート： 20 %		発表： %		実技試験： %
その他： 20 %						
特記事項： 中間テスト20%、期末テスト40%とする。レポートは個人で取り組んだものに対して評価する。その他は、授業への取り組み姿勢や受講態度、グループへの貢献度等に対して評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 第7回、第15回にテストを行い、当日ファイルを提出する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： テストを行い、採点し返す。間違っている箇所を訂正させ理解を深める。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
① オリエンテーション(今後の授業に対する心構えと見直し) 生涯発達から見た乳児の時期とは				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
② 0・1・2歳児の発達の特徴と保育の中で大切にしたいこと				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
③ 保育の中で乳児の発達を見つめる視点				演習① 講義の後、学んだことや感想をレポートする		
④ 保育園の1日				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑤ 基本的生活の内容と方法				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑥ 特別な配慮を必要とする子ども				演習② 講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑦ 遊びのあり方				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑧ 遊びの特徴と内容				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑨ まとめ				中間テスト		
⑩ 遊びと環境				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑪ 遊び文化				演習③ 講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑫ 乳児保育担当者の実際				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑬ 保育士のあり方				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑭ 保育士を目指して				演習④ 講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑮ まとめ				期末テスト		
使用テキスト： ①乳児保育研究会 (編)2015 『改定版 資料でわかる乳児の保育新時代』(株)＜ひとなる書房＞ ②厚生労働省 2014 『保育所保育指針解説書』＜フレーベル館＞				その他参考文献など： 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料も適宜配布する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 毎回講義の後、学んだことや感想をレポートすることを課題とする。 学んだことや感想を的確に文章にすることで実践記録を書く力につながると考えます。 尚、乳児保育 I の単位を修得しなければ、乳児保育 II の履修登録はできないので注意すること。						

幼児教育学科

1年

科目名：乳児保育Ⅱ				担当教員氏名：尾島 悦子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
1	1年次 後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
乳児期は、人としての基礎を培う大切な時期と言われています。乳児保育Ⅰで学んだことを踏まえ、社会の変動の中で生成発展した乳児保育の成立の要因を認識し、これからの乳児保育が担う社会的な意味を理解する。人間形成の基礎を培う乳児を保護者や地域社会とともに育てていく保育士の役割について学ぶ。同時に保育士の仕事の楽しさを伝える。					命・乳児・家族・家庭 保育・生活・遊び・環境	
授業科目の到達目標						
			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)	1. 6. 9. 10		
A 知識・理解力	乳児保育の歴史的変遷やこれからの乳児保育における課題(多様化するニーズに対応するなど)について学ぶ。					
B 専門的技術	保育の記録(子どもの姿・活動)や計画(保育課程・指導計画)の必要性を認識する。指導計画作成にあたっての視点について学ぶ。					
E 自己管理能力	自らを律して行動できる。					
F チームワーク・リーダーシップ	他者と信頼関係を築き、目標実現のため協力し共に育ちあうことができる。					
H コミュニケーション力	言語や身体を用いて自己・他者の理解を深めるコミュニケーションができる。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: 中間テスト20%、期末テスト40%とする。レポートは個人で取り組んだものに対して評価する。その他は、授業への取り組み姿勢や受講態度、グループへの貢献度等に対して評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第7回、第15回にテストを行い、当日ファイルを提出する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバック: テストを行い、採点し返す。間違っている箇所を訂正させ理解を深める。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①乳児保育Ⅰの振り返り 自主実習を振り返りグループディスカッションをする			演習①	講義の後、学んだことや感想をレポートする		
② 子どもの姿・活動のメモと記録				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
③ 保育課程・指導計画を立てるにあたって				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
④ 指導計画作成の視点				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑤ さまざまな指導計画			演習②	講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑥ 乳児保育と「3歳児神話」				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑦ 子どもの発達と乳児保育				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑧ 親としての発達に関わる要因				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑨ まとめ				中間テスト		
⑩ 子どもも親もともに豊に育ていくために			演習③	講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑪ 本実習を振り返りグループディスカッションをする			演習④	講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑫ 乳児保育の歩み				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑬ 乳児保育の現状と課題				講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑭ 新制度と乳児保育に関わる課題			演習⑤	講義の後、学んだことや感想をレポートする		
⑮ まとめ				期末テスト		
使用テキスト: ①乳児保育研究会 (編)2015 『改定版 資料でわかる乳児の保育新時代』(株)＜ひとなる書房＞ ②厚生労働省 2014 『保育所保育指針解説書』＜フレーベル館＞				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料も適宜配布する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 毎回講義の後、学んだことや感想をレポートすることを課題とする。学んだことや感想を的確に文章にすることで実践記録を書く力につながると考えます。						

幼児教育学科

1 年

科目名： 障害児保育 I				担当教員 氏名： 梅澤 功	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
<p>本科目では、障害のある子どものとらえ方及び支援方法について学びます。また、遊具やおもちゃを使った発達を支援する遊び(ムーブメント教育・感覚統合等)の実技演習を通して、統合保育における具体的な支援技能を身に付けます。</p>					障害児 統合保育 発達を支援する遊び
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力		・障害のある子どもの具体像について理解することができる。			
B 専門的技術		・発達を支援する遊びを中心に、障害のある子どもに対する具体的な支援技能を習得する。			
D 問題解決力		・演習を通して、障害のある子どもに適した対応方法を自分なりに工夫して、具体的に考えることができるようになる。			
F チームワーク・リーダーシップ		・障害のある子どもに関する調査を通して、自分の考えをまとめる力を養う。			
G 倫理観		・障害のある子どもの保育にあたり、保育士として身につけておくべき倫理を知り、身につける。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 35 %		レポート: 30 %		発表: 10 %	
				実技試験: %	
				その他: 25 %	
<p>特記事項: レポートは、3回提出する。発表は、10点満点で1回。皆出席25点、1回休むごとに-5点。6回休むと単位認定しない。公欠は含まない。 ・テスト35点+レポート30点+発表10点+出席点25点=100点満点</p>					
<p>テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ・テストは、概ね7回、14回の講義で実施する。 ・発表は「発表者」に指定されたときに行う。</p>					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:					
授 業 計 画				事前・事後の学習課題	
①オリエンテーション					
②障害児保育の基礎理論1 - 障害の捉え方について					
③障害児保育の基礎理論2 - 障害幼児の抱える困り感について					
④調査演習1 - さまざまな障害のある子どもの具体像と生育上の課題					
⑤発達を支援する遊び(1) 理論と実際					
⑥発達を支援する遊び(2) 実技演習					
⑦発達を支援する遊び(3) 実技演習					
⑧調査演習2 - さまざまな障害のある子どもの具体像と生育上の課題のまとめ					
⑨発達を支援する遊び(4) 実技演習					
⑩発達を支援する遊び(5) 保育実践					
⑪調査演習3 - さまざまな障害のある子どもの具体像と生育上の課題の発表					
⑫障害児保育の基礎理論3 - 保育のユニバーサルデザイン					
⑬障害児保育の技法の実際5 - 視覚的な支援の実際①(スケジュールカードの制作)					
⑭障害児保育の技法の実際6 - 視覚的な支援の実際②(スケジュールカードの制作続き)					
⑮まとめ					
使用テキスト: 「よくわかる障害児保育」 ミネルバ書房				その他参考文献など: 講義の中で適宜紹介する。	
<p>受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 多くの保育所や幼稚園で、障害のある、またその疑いのある子どもが保育を受けています。障害のある子どもを理解し、その支援技能を身につけることは、保育士にとって、欠かすことのできない要件です。実技を交えながら進めて行く予定です。特に運動服である必要はありませんが、動きやすい服装で参加してください。スカート不可。</p>					

幼児教育学科

1年

科目名： 幼児と自然				担当教員 氏名： 若山 育代		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択 必修/選択	備考	
2	1年次 前期	専門科目	講義	選択	保育士資格指定科目(選択)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
多様な自然遊びに関する子どもの反応と保育士の構えについて考えたり、身近な動物に直接触れることで飼いを身につけたり、自然体験活動を子どもになりきって直接体験したりして、幼児期の子どもにとっての自然の教育的意義を理解することができる。					自然 子ども理解 飼育 栽培	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		多様な自然遊びに関する子どもの反応と保育士の構えについて理解する				
B 専門的技術		身近な動物の飼育方法、植物の栽培方法を身につける				
F チームワーク・リーダーシップ		リーダー、サブリーダーなどの役割を理解し、チームに参画することができる				
B 専門的技術		子どもの気持ちを理解し適切な援助を行うために、まず、子どもの気持ちになりきって活動に取り組むことができる				
G 倫理観		生物を扱うことを通して、「命」について深く考え、指導に生かしていこうとすることができる				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 70 %	発表： 30 %	実技試験： %	その他： %		
特記事項：6時間続きのファミリーパーク実習を1回実施する(7/14予定)						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：①レポート(含：出席)を適宜実施。②ファミリーパーク実習の後、学びについての振り返りを行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポートと振り返りについてはチェック後返却します。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
① オリエンテーション(これからの見通し)				事後の復習		
② 飼育で育つ子ども(1)				事後の復習		
③ 飼育で育つ子ども(2)				毎時間の小レポート有・事後の復習		
④ 栽培で育つ子ども(1)				事後の復習		
⑤ 栽培で育つ子ども(2)				事後の復習		
⑥ クラスにおける科学的活動(1)				毎時間の小レポート有・事後の復習		
⑦ クラスにおける科学的活動(2)				毎時間の小レポート有・事後の復習		
⑧ 附属幼稚園の実践から(1)				事後の復習		
⑨ 附属幼稚園の実践から(2)				毎時間の小レポート有・事後の復習		
⑩ ファミリーパーク実習 野原の科学				実習準備・振り返り		
⑪ ファミリーパーク実習 小動物の飼い方				実習準備・振り返り		
⑫ ファミリーパーク実習 みんなで作るバーベキュー				実習準備・振り返り		
⑬ ファミリーパーク実習 ウサギの飼い方				実習準備・振り返り		
⑭ ファミリーパーク実習 どんごたんぼ				実習準備・振り返り		
⑮ ファミリーパーク実習の振り返り				レポート提出		
使用テキスト： 未定(必要があれば、初回の講義で紹介します)				その他参考文献など： 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説書		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ⑩～⑭の授業は、富山市ファミリーパークでの実習5時間分になります。必ず参加しましょう。 日程が変更される場合があります。掲示を確認して下さい。						

幼児教育学科

1 年

科目名: 音楽 I				担当教員 氏名: 山本、國分、荒木、串田、佐々木、水上、里見、林、森田		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	1年次	前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
音楽の基礎的理論を学び、確かな読譜力と表現法を習得する。またピアノ、声楽の実技指導によって演奏力、歌唱力を身につけ、童謡のピアノ弾き歌いができるようにする。						読譜力 歌唱法 ピアノ奏法
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		3. 5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力			音楽の基礎的理論を学び、楽譜の理解に繋げる。			
B 専門的技術			ピアノ、声楽の実技指導によってピアノ演奏力、歌唱力を身につける。			
H コミュニケーション力			レッスンや合唱、アンサンブルを通して、自分の思いや考えを伝える力を育てる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 30 %		レポート: %		発表: %		実技試験: 50 % その他: 20 %
特記事項: 「その他20%」の部分はピアノ・声楽のレッスンにおける評価。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業におけるテストとピアノ・声楽の実技試験は8回目と15回目に行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 評価を伝え、必要に応じて個別指導を行う。						
授 業 計 画						
【荒木・國分】			【音楽レッスン】		【ピアノレッスン】	
①	音楽通論・譜表と音名1	読譜とリズムトレーニング1	発声法1	ピアノ奏法		
②	音楽通論・譜表と音名2	読譜とリズムトレーニング2	発声法2・童謡1	童謡弾き歌い1		
③	音符と休符1	伴奏付け1 コードネーム1	コールユ・童謡2	童謡弾き歌い2		
④	音符と休符2	伴奏付け2 コードネーム2	コールユ・童謡3	童謡弾き歌い3		
⑤	リズムと拍子1	伴奏付け3 コードネーム3	コールユ・童謡4	童謡弾き歌い4		
⑥	リズムと拍子2	伴奏付け4 コードネーム4	コールユ・童謡5	童謡弾き歌い5		
⑦	リズムと拍子3	伴奏付け5 コードネーム5	コールユ・童謡6	童謡弾き歌い6		
⑧	中間(まとめ)		中間(まとめ)	中間(まとめ)		
⑨	音程1	音楽指導のテクニック1	コールユ・童謡7	童謡弾き歌い7		
⑩	音階2	音楽指導のテクニック2	コールユ・童謡8	童謡弾き歌い8		
⑪	音階3	音楽指導のテクニック3	コールユ・童謡9	童謡弾き歌い9		
⑫	ハ長調の音階	伴奏付け・メロディ1	コールユ・童謡10	童謡弾き歌い10		
⑬	ハ長調の和音1	伴奏付け・メロディ2	コールユ・童謡11	童謡弾き歌い11		
⑭	ハ長調の和音2	伴奏付け・メロディ3	コールユ・童謡12	童謡弾き歌い12		
⑮	前期末(まとめ)		前期末(まとめ)	前期末(まとめ)		
使用テキスト: ・東京書籍 小林美実編「音楽リズム」・ドレミ出版 坂東貴余子編(改訂版)「子どもの歌ベストテン」・啓隆社(株)「Music note」・ひかりのくに(株)「子どもの歌12ヶ月」・音楽之友社「歌う弾く表現する保育者になろう」				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 音楽 I は授業に加えて、個々の演奏技術を向上させるためピアノの個人レッスンと声楽の授業を受講しなければなりません。授業での評価とピアノ・声楽の実技の評価を合わせて音楽 I の評価となり、単位を取得することができます。						

幼児教育学科

1年

科目名: 音楽Ⅱ					担当教員 氏名: 山本、國分、荒木、串田、水上、里見、林、森田、佐々木	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門	演習	必修	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
授業においては音楽の基礎的理論を習得し、アンサンブルを通して各楽器の奏法を学ぶ。またピアノ・声楽の実技指導によって演奏力、歌唱力を身につける。						演奏力 歌唱力
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		3. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力			音楽の基礎的理論を習得し、確かな読譜力を身につける。			
B 専門的技術			ピアノ、声楽、アンサンブルの実技指導によって幅広い表現力を身につける。			
H コミュニケーション力			実技レッスンやアンサンブルを通して協調性や思いを伝える力を育てる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 30 %	レポート: %	発表: %	実技試験: 50 %	その他: 20 %		
特記事項: 「その他20%」の部分はピアノ・声楽のレッスンにおける評価。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業におけるテストとピアノ・声楽の実技試験は8回目と15回目に行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 評価を伝え、必要に応じて個別指導を行う。						
授 業 計 画						
【荒木・國分】		【声楽レッスン】		【ピアノレッスン】		
① 通論・ト長調音階	伴奏付け(変奏1)	発声法・童謡1	童謡弾き歌い1			
② ト長調の和音1	伴奏付け(変奏2)	発声法・童謡2	童謡弾き歌い2			
③ ト長調の和音2	伴奏付け(変奏3)	コールユ・童謡3	童謡弾き歌い3			
④ ヘ長調の音階	伴奏付け(変奏4)	コールユ・童謡4	童謡弾き歌い4			
⑤ ヘ長調の和音1	合奏(楽器名・奏法)1	コールユ・童謡5	童謡弾き歌い5			
⑥ ヘ長調の和音2	合奏(楽器名・奏法)2	コールユ・童謡6	童謡弾き歌い6			
⑦ その他の音階1	合奏(リズム)1	コールユ・童謡7	童謡弾き歌い7			
⑧ 中間(まとめ)		中間(まとめ)	中間(まとめ)			
⑨ その他の音階2	合奏(リズム)2	コールユ・童謡8	童謡弾き歌い8			
⑩ 移調1	トーンチャイム・Mベル1	コールユ・童謡9	童謡弾き歌い9			
⑪ 移調2	トーンチャイム・Mベル2	コールユ・童謡10	童謡弾き歌い10			
⑫ 作詞・作曲1	合奏1	コールユ・童謡11	童謡弾き歌い11			
⑬ 作詞・作曲2	合奏2	コールユ・童謡12	童謡弾き歌い12			
⑭ 楽語	合奏3	コールユ・童謡13	童謡弾き歌い13			
⑮ 後期末(まとめ)		後期末(まとめ)	後期末(まとめ)			
使用テキスト: 「音楽リズム」・「子どもの歌ベストテン」・「Music note」・「子どもの歌12カ月」・「歌う弾く表現する保育者になろう」				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 音楽Ⅱは授業に加えて、ピアノの個人レッスンと声楽の授業を受講しなければなりません。授業とピアノ・声楽の実技を合わせて評価され、単位を取得できます。						

幼児教育学科

1 年

科目名: 図画工作 I				担当教員 氏名: 岡野 宏宣		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択		備考
1	1年次 前期	専門	演習	必修		保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
様々な造形表現活動の課題に取り組む。そのなかで、課題の趣旨を理解して、自ら感じ・考え、素直に表現する態度を培うことを目標とする。また、各課題の後に学びをふり取り、自らの考えや発見などを整理・記録し、他の学生の表現意図の理解などのまとめを行う。						・造形表現活動 ・学びのまとめ (考えや発見、表現意図などの整理・記録)
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8.	
A 知識・理解力			造形表現活動の意義や内容について理解することが出来る。			
B 専門的技術			造形表現活動に関する基礎的・基本的な技術を習得する。			
D 問題解決力			自分が経験した造形表現活動に関する意義や内容、発見や表現意図などに関してまとめ、整理して記録することができる。			
H コミュニケーション力			造形表現活動に取り組むなかで、自己・他者を理解し、コミュニケーションを育むことができる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 50 %	発表: 50 %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: 『レポート(50%)』は、各課題の学びをまとめて整理・記録したフォリオである。『発表(50%)』は、課題作品・提出(課題によっては発表あり)・授業態度である。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループによる制作活動を取り入れ、保育所などでの子どもたちと造形活動を行うことを想定し授業を行っている。 テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:各課題(活動1~6回)のまとめの授業時間に学びを整理・記録したフォリオを作成して提出。その後にはフォリオの記入状況、課題作品・発表、授業態度と合わせて評価(点数化)していきます。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 作品フォリオへコメントを記入して返却する。						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
①ガイダンス(「図画工作 I」の概略の理解。課題1のための<私>の写真撮影会。)						
②課題1.『<私>の自己紹介ページをデザインしよう』						
③課題2.『点と線で遊ぶ』1(いろいろな点と線で遊ぶ、両手で描こう、ビー玉の軌跡から)						
④課題2.『点と線で遊ぶ』2(まとめ)						
⑤課題3.『色の探検』1(虹を描く、色彩効果の実験)						
⑥課題3.『色の探検』2(色のイメージ、イメージの染紙)						
⑦活動3.『色の探検』3(まとめ)						
⑧活動4.『形の発見』1(切り紙)						
⑨活動4.『形の発見』2まとめ						
⑩活動5.『触覚の発見』1(粘土、小麦粉粘土)						
⑪活動5.『触覚の発見』2(まとめ)						
①活動6.『版の不思議』1(版について、スタンピング)						
②活動6.『版の不思議』2(ステレン版画)						
③活動6.『版の不思議』3(紙版画)						
⑤活動6.『版の不思議』4(まとめ)・作品フォリオのまとめ						
使用テキスト: 必要に応じて資料を提供します。				その他参考文献など: 随時紹介します。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業のたびに課題制作がある授業のため、毎回欠かさず出席してください。やむを得ない理由で課題の進行が遅れた場合は、自ら時間をつくり、各課題のまとめの時間までに遅れを取り戻してください。						

幼児教育学科

1年

科目名： 図画工作Ⅱ					担当教員 氏名： 岡野 宏宣	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択必修／選択	備考
1	1年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
子どもが楽しめる様々な造形表現活動の課題に取り組む(グループ活動もあり)。そのなかで、課題の趣旨を理解して、自ら感じ・考え・表現し、時にはグループで協力して課題に取り組む態度を培う。また、各課題の後に学びをふり返り、自他の考えや発見、子どもとかわる際の援助・留意点などについて整理・記録を行う。						・子どもの造形表現活動 ・個別学習とグループ学習 ・学びのまとめ(造形表現活動の意義や内容、子どもへの援助・留意点などの整理・記録)
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力			子どもが楽しめる造形表現活動の意義や内容について理解することができる。			
B 専門的技術			保育・教育関係の教職員としての造形表現活動に関する基礎的・基本的な技術を習得する。			
D 問題解決力			課題の造形表現活動に関する意義や内容、発見や表現意図などに関してまとめ、子どもとかわる場に向けて、学びを整理して記録することができる。			
H コミュニケーション力			造形表現活動に取り組むなかで、自己・他者を理解し、コミュニケーションを育むことができる。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 50 %	発表： 50 %	実技試験： %	その他： %		
特記事項： 『レポート(50%)』は、各課題の学びをまとめて整理・記録したフォリオである。『発表(50%)』は、課題作品・提出(課題によっては発表あり)・授業態度である。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループによる制作活動を取り入れ、保育所などで子どもたちと造形活動を行うことを想定し授業を行っている。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：各課題(活動1～4)のまとめの授業時間に学びを整理・記録したフォリオを作成して提出。その後にフォリオの記入状況、課題作品・発表、授業態度と合わせて評価(点数化)していきます。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： 作品フォリオへコメントを記入して返却する。						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
①活動1.『紙の技』1 (染め紙)						
②活動1.『紙の技』2 (紙について、貼り子のランプシェード)						
③活動1.『紙の技』3 (貼り子のランプシェード)						
④活動1.『紙の技』3 (貼り子のランプシェード/振返り)						
⑤活動2.『素材の工夫』1 (制作)						
⑥活動2.『素材の工夫』2 (制作)						
⑦活動2.『素材の工夫』3 (制作)						
⑧活動3.『自然素材を使って』1 (制作)						
⑨活動3.『自然素材を使って』2 (制作)						
⑩活動3.『自然素材を使って』3 (まとめ)						
⑪活動4.『紙テープの稜線接着』1 (行事について)						
⑫活動4.『紙テープの稜線接着』2 (制作①)						
⑬活動4.『紙テープの稜線接着』3 (制作②)						
⑭活動4.『紙テープの稜線接着』4 (制作③)						
⑮活動4.『紙テープの稜線接着』5 (まとめ)						
使用テキスト： 必要に応じて資料を提供します。					その他参考文献など： 随時紹介します。	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 授業のたびに課題制作がある授業のため、毎回欠かさず出席してください。やむを得ない理由で課題の進行が遅れた場合は、自ら時間をつくり、各課題のまとめの時間までに遅れを取り戻してください。						

幼児教育学科

1 年

科目名：臨床美術				担当教員 氏名：北澤 晃、岡野 宏宣			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	1年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 臨床美術士5級資格	
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード	
右脳の活性化と認知症予防の関係を知り、他者との関係を深めるコミュニケーション空間をつくり出し、美術療法の技術を用いて生き生きとした活動を設定する力を身に付ける。また、主体的にロールプレイングなどアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などで活動する実践力を身に付ける。						・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション ・量感画	
授業科目の到達目標							
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 8.		
A 知識・理解力			右脳の活性化と認知症について理解することができる。				
B 専門的技術			状況や関係を把握して量感画などで表す基本的技術を習得する。				
D 問題解決力			「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。				
F チームワーク・リーダーシップ			リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。				
H コミュニケーション力			造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする							
テスト： 0 %		レポート： 30 %		発表： 30 %		実技試験： 30 %	
その他： 10 %							
特記事項： 事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内の発言。実技試験はロールプレイングの理解と実践力。その他は積極性を指す。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として福祉施設などを想定して学生同士におけるロールプレイングを行います。 準備物：毎回の授業に持参してください。・ハサミ、スティック糊、割り箸ペン、新聞紙(朝刊1日分)、ウェットティッシュ、クロッキー帳、鉛筆2Bか4B							
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：発表・実技は毎時間毎に実施する。							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：課題提出時に振り返りのコメントを伝える。							
使用テキスト：『臨床美術士養成講座5級』、芸術造形研究所 『臨床美術・痴呆治療としてのアートセラピー』、芸術造形研究所					その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・本科目は一日に2コマや3コマ続けて行う科目になります。また開講日時も不規則なため、授業日をよく確認してください。 ・オイルパステルの特性を知り、自分自身が楽しめるようになるために、継続的に描き続けてみる必要があります。							
授 業 計 画						準備物/事前・事後の学習課題	
回数							
	【岡野】授業ガイダンス					10月2日	
1	【北澤】臨床美術基幹 I -①					10月16日	事前課題：自己紹介文(ガイダンスで配布)
2	【北澤】臨床美術基幹 I -②					10月16日	
3	【岡野】臨床美術入門 I「五感のアナログ画」					10月23日	
4	【岡野】臨床美術入門 I「りんごの量感画」					10月23日	
5	【北澤】臨床美術入門 I「立体かぼちゃ」①					10月30日	
6	【北澤】臨床美術入門 I「立体かぼちゃ」②					10月30日	準備物：作品を持ち帰るための袋

※前ページよりつづき 幼児教育学科 社会福祉 専攻 1年

科目名：臨床美術		担当教員 氏名：北澤 晃、岡野 宏宣	
7	【岡野】臨床美術実践の基礎「りんごの模刻」	11月6日	事前課題：りんごの量感画 準備物：りんご1個、雑巾
8	【岡野】臨床美術実践の基礎「りんごの量感画」	11月6日	
9	【北澤】存在論的人間観	12月4日	
10	【北澤】臨床美術コミュニケーションⅠ 「私の感性地図」「鑑賞会」	12月4日	事前課題：私の感性地図・りんご以外の量感画
11	【岡野】臨床美術コミュニケーションⅠ 「アナログ画①」	12月11日	事前課題：アナログ日記① 準備物：鉛筆(2Bか4B) 事前課題：書籍『臨床美術』の感想文
12	【岡野】臨床美術コミュニケーションⅠ 「アナログ画②」	12月11日	
13	【北澤】臨床美術コミュニケーションⅠ 「現場セッションについて」	12月18日	
14	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイングに向けて試作」	1月15日	準備物：さつま芋(紫芋以外で) 和紙セット(試作で使用) 事前課題 ・修正輪郭画 ・ゴッホの素描 ・りんごを描く4種
15			
	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイングに向けてリハーサル」	1月15日	
16	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング①」	1月22日	準備物：さつま芋1個+α
17	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング②」	1月22日	
18	【岡野】臨床美術実践の基礎 「総括」	1月29日	事前課題：アナログ日記② 準備物：臨床美術協会資格認定申請書 (課題をすべて提出している方)
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

幼児教育学科

1年

科目名: 国語表現					担当教員 氏名: 佐山 朋子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	1年次 通年	専門	講義	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
日本語を表現することは、自己表現することである。したがって、文章や会話を通して、自己の在りようが現れることから、適切に伝えるための日本語表現の基礎基本を学ぶとともに、他者との関係を豊かにする自己表現の態度を養う。					国語力の基礎 話す力 聴く力 ナラティブ・アプローチ(自己物語) 「つくり、つくりかえ、つくる」 プレゼンテーション	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力			日本語の正しい使い方を身につける。			
C 論理的思考力			言葉を客観的に理解し、正しく判断する。			
D 問題解決力			情報を的確に収集し、集めた情報を正しく分析する。			
H コミュニケーション力			言葉やジェスチャーを用いて、お互いの意志の伝達を図る。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 30 %		発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %
特記事項: 上記「その他10%」では、授業態度、授業への積極性を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート、小テストを適宜取り入れる。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 前期・後期それぞれに小テストを行い、採点返却の上、習熟度を再確認する。						
授 業 計 画			日付		事前・事後の学習課題	
①アカデミックワードと日常語・現代表記			4月26日		テキストP2、P3を読んでおく	
②誤りやすい用字用語・記号の使い方・見やすい表記			5月10日		ノート、プリントの見直し	
③敬語			5月17日		テキストP29を事前学習。プリントで見直し	
④あいまいな文・文のねじれ			5月24日		ノート、プリントの見直し	
⑤分かりやすい語順・接続表現の使い方・文末に注意する			5月31日		テキストP40、P41を事前学習	
⑥データの解釈			6月7日		テキストP21～P26を事前学習	
⑦レポートの内容と構成・注の書き方・参考文献の書き方と引用の仕方			6月14日		テキストP47、P48を事前学習	
⑧会話の達人になるには・社会人としての会話・電話を使いこなす			6月21日		①～⑧の小テスト	
⑨闘病記をプレゼンテーションで伝える			9月6日		闘病記を読む	
⑩闘病記をプレゼンテーションで伝える			9月13日		闘病記を読む	
⑪(文章検) 基礎力<語彙・文法>			9月20日		プリントの見直し	
⑫(文章検) 読解力<文章構成等>			9月27日		プリントの見直し	
⑬(文章検) 作成力<表現>			10月4日		プリントの見直し	
⑭(文章検) 作成力<通信文>			10月11日		プリントの見直し	
⑮(文章検) 作成力<意見文>			10月18日		「文章検」のための小テスト	
使用テキスト: 「文章検定公式テキスト3級」。必要に応じてプリントを配布する。①～⑧の授業で『未来をひらく自己物語 書くことによるナラティブ・アプローチ』(入学前課題図書)を参考書として使用する。					その他参考文献など: 「読むだけ小論文」樋口裕一 「<型>で書く文章論」西田みどり	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

幼児教育学科

1年

科目名: 保育表現技術(言語表現)				担当教員氏名: 高見 泰子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
1	1年次 前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や保育技術を習得する。特に、言語表現に焦点を当て、言語表現活動に関する知識や保育技術を習得する。また、表現活動に用いる教材等の作成および活用と、保育の環境構成及び具体的展開のための保育技術を習得する。					・子どもの遊び ・児童文化財 ・子どもの表現活動 ・言語環境 ・保育技術 ・言語表現	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		4. 5. 6. 7. 8.	
B 専門的技術		絵本、紙芝居、素話等に関する知識と保育技術を習得する。				
A 知識・理解力		子ども自らが児童文化財等に親しむ経験ができるための、保育の環境構成を考える。				
D 問題解決力		子どもの経験や表現活動と児童文化財を結びつける遊びの展開について、総合的に学ぶ。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 10 %	発表: 70 %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: レポートは、授業の取り組みに関して学んだことを作成した「振り返りシート」を評価する。発表には、製作課題への取り組みと発表が含まれる。その他は、授業態度や課題への取り組み、グループ活動での貢献度等を総合的に評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の取り組みに関するシートは随時提出する。課題の発表と提出を課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 演習に重点を置き、その都度具体的に身に付け、校外で演じられるようにする。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
① 言語表現活動の意義と幼児の発達						
② いろいろな表現活動の種類				【事後】自分の好きな表現活動を選んで準備する		
③ 読み聞かせの実践 1						
④ 読み聞かせの実践 2						
⑤ 読み聞かせの発表 1						
⑥ 読み聞かせの発表 2				【事後】前回と異なった表現活動を選んで準備する		
⑦ 読み聞かせの実践 3						
⑧ 読み聞かせの実践 4						
⑨ 読み聞かせの発表 3						
⑩ 読み聞かせの発表 4						
⑪ 模擬練習 1						
⑫ 模擬練習 2				【事後】各自自信をもって子どもたちの前で演じられるように練習する		
⑬ 学外発表会 A班 (校外の幼稚園)						
⑭ 学外発表会 B班 (校外の幼稚園)						
⑮ 振り返り及びまとめ						
使用テキスト: ①文部科学省 2008 『幼稚園教育要領解説』<フレーベル館> ②厚生労働省 2008 『保育所保育指針解説書』<フレーベル館>				その他参考文献など: こどもの論語塾 ことばっておもしろい 言葉あそびBEST40		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目は、アクティブラーニングの一環として、個人やグループでいろいろな保育教材を使って発表する機会を設けます。また、後半の授業では、校外の幼稚園で実際に演じてきます。様々な言語表現を楽しんだり、児童文化財に触れたりしていきましょう。毎回の出席が原則です。やむを得ず欠席した場合は、自ら時間を作り発表の時間までに遅れを取り戻して下さい。また授業内容をきちんとノートし、配布資料は分類してファイリングしておいて下さい。この授業の学びが、2年次の『保育内容(言語表現)』の基礎となります。						

幼児教育学科

1

科目名: 保育実習指導 I				担当教員 氏名: 藤井、石津、山本、岡小川、轟本		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	1年次 2年次	通年	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
<p>保育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。1年次の保育実習指導 I では事前学習として、保育実習の意義、保育士や保育所及び児童福祉施設の役割、実習計画の立て方等を学ぶ。事後学習としては、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理し2年次の保育実習に備える。</p>						<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義 ・実習計画 ・実習報告書
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		1. 4. 6. 9.	
A 知識・理解力			保育実習の意義や方法を理解する。			
E 自己管理能力			保育実習に必要な手続きを行う。			
D 問題解決力			保育実習の計画を立てる。			
C 論理的思考力			実習報告書を作成し、各自の課題を整理する。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: % その他:
特記事項: 毎回の出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。また、1年次、2年次前期にまたがる授業で実習 I-①・保育実習 I-②が終わってから評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 課題や指導案等にコメントを記載して返却						
使用テキスト: ①民秋言(編著) 2014 『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』 <萌文書林> ②開仁志(編著)『これで安心保育指導案の書き方』 <北大路書房> ③開仁志(編著)『実習日誌の書き方』 <一藝社>				その他参考文献など: ①東山明・名賀三希子(著) 2005 『教習実技ガイド』<ひかりのくに> ②片山(著) 2012 『新版 保育実習・教育実習』<朱鷺書房>		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、1年、2年次前期にまたがる全ての授業課題に取り組むと共に、保育実習 I-①・保育実習 I-②の全4単位を履修する必要があります。また、実習を行うにあに必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関し習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。 本科目の履修状況によっては、保育実習 I-①の履修を認めないことがあります。						
授 業 計 画						事前・事後の学習
1	オリエンテーション(授業の進め方、方法に関して)					【事後】①の復習
2	保育実習の意義					【事後】②の復習
3	保育所の理解・児童福祉施設の理解					【事後】③の復習
4	外部講師による講義(保育所の生活)					【事後】④の復習
5	保育実習 I-①について(実習内容と実習に際しての留意事項)					【事後】⑤の復習
6	保育所見学について					【事後】⑥の復習
7	保育所見学①(2つの保育所を交代で見学)					【事後】⑦の復習

年 月 日
課題
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

幼児教育学科

1 年

科目名: 保育実習 I -①				担当教員 氏名: 藤井、石津、山本 岡野、小川、轟本		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門科目	実習	選択	保育士資格指定科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
保育所における10日間の実習を通して、そこで生活する乳幼児、特に3歳未満児の生活や遊びを理解し、保育所の人的・物的環境や保育士の業務内容について具体的に理解を深める。						・保育所の役割・機能 ・保育所の環境 ・3歳未満児の生活と遊び ・保育士の業務内容
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力			保育所のもつ機能・役割について具体的に理解する。			
A 知識・理解力			観察やかかわりを通して、乳幼児、特に3歳未満児の発達と生活への理解を深める。			
A 知識・理解力			3歳未満児の保育や保育援助について総合的に学ぶ。			
A 知識・理解力			保育の計画、環境構成、記録および自己評価等について具体的に理解する。			
B 専門的技術						
C 論理的思考力						
D 問題解決力						
G 倫理観			保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 100 %		
特記事項: 実習先保育所の評価に担当教員の評価を合わせ、総合的に評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
※実習先保育所のプログラムに沿って実習を行う。						
使用テキスト:					その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習は子どもたちの生活の場で行われます。そのことを十分認識し、社会人としての自覚をもって実習に臨んで下さい。 尚、保育実習 I -①への参加は、保育実習指導 I やその他保育士資格に必要な科目の履修状況、短大生活への取り組み等に基づいて総合的に判断されます。						

幼児教育学科

1年

科目名: 教育実習指導					担当教員 氏名: 藤井、石津、山本 岡野、小川、轟本	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	1年次 2年次	後期 後期	専門	演習	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
教育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。1年次の教育実習指導では事前学習として、教育実習の意義、幼稚園教諭や幼稚園の役割、実習計画の立て方等を学ぶ。事後学習としては、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理し2年次の教育実習Ⅱに備える。						・教育実習の意義 ・教育実習の方法 ・実習計画 ・実習報告書
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 4. 6. 9.	
A 知識・理解力			教育実習の意義や方法を理解する。			
E 自己管理能力			教育実習に必要な手続きを行う。			
D 問題解決力			教育実習の計画を立てる。			
C 論理的思考力			実習報告書を作成し、各自の課題を整理する。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: % その他: 100 %
特記事項: 毎回の出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。また、1年次後期、2年次後期にまたがる授業であり、教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱが終わってから評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 提出レポートや指導案にコメントを記載して返却						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①教育実習の意義・幼稚園について				【事後】①の復習		
②幼稚園の教育課程について・実習生の役割について				【事後】②の復習		
③外部講師による特別講義(幼稚園の生活)				【事後】③の復習		
④実習計画について				【事後】④の復習		
⑤実習日誌の書き方について				【事後】⑤の復習		
⑥実習指導案の書き方について				【事後】⑥の復習		
⑦事前訪問 および 実習計画の作成				【事後】⑦の復習		
⑧実習報告書の作成				【事後】講義全体の復習		
使用テキスト:① 横山洋子・中島千恵子(編著) 2010『実践で語る幼稚園教諭への道』<大学図書出版> ② 民秋言(編著) 2014『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』<萌文書林>				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、1年次後期、2年次後期にまたがる全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、教育実習Ⅰ・Ⅱの全4単位を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。 本科目の履修状況によっては、教育実習Ⅰの履修を認めないことがあります。						

幼児教育学科

1 年

科目名：教育実習 I				担当教員 氏名：藤井、石津、山本 岡野、小川、鶴本		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門科目	実習	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
幼稚園における10日間の実習を通して、そこで生活する幼児の発達や遊びの姿を理解し、幼稚園の人的・物的環境や幼稚園教諭の職務内容等について具体的な理解を深める。					<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の機能・役割 幼稚園の環境 幼児の発達と遊び 幼稚園教諭の職務内容 	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9.		
A 知識・理解力		幼稚園のもつ機能・役割について具体的に理解する。				
A 知識・理解力		観察やかかわりを通して、幼児の発達への理解を深める。				
A 知識・理解力		幼児の保育・教育や、保育援助・指導について総合的に学ぶ。				
A 知識・理解力		保育・幼児教育の計画、環境構成、記録および自己評価等について具体的に理解する。				
B 専門的技術						
C 論理的思考力						
D 問題解決力						
G 倫理観		幼稚園教諭の職務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %		レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 100 %	
特記事項: 実習先幼稚園の評価に担当教員の評価を合わせ、総合的に評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画			事前・事後の学習課題			
※実習先幼稚園のプログラムに沿って実習を行う。						
使用テキスト:			その他参考文献など:			
<p>受講上の留意点(担当者からのメッセージ):</p> <p>実習は子どもたちの生活の場で行われます。そのことを十分認識し、社会人としての自覚をもって実習に臨んで下さい。</p> <p>尚、教育実習 I への参加は、教育実習指導やその他幼稚園教諭免許に必要な科目の履修状況、短大生活への取り組み等に基づいて総合的に判断されます。</p>						

幼児教育学科

1年

科目名: 地域づくりかえ学				担当教員 氏名: 川目 俊哉、北澤 晃、宮嶋 潔、他		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
1	1年次 前期	総合科目	講義	必修	保育士資格指定科目(選択)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
主体的に地域の課題を学び、その解決のために必要な目標を設定し、具体的に「ひと・こと・もの」(地域社会)に関わる行動に移し、自身を「つくり、つくりかえ、つくる」実践力を高める。					教育目標「つくり、つくりかえ、つくる」、「私」宣言、地域社会に生きる「私」、実践躬行	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10.		
D 問題解決力	問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。					
E 自己管理能力	地域社会の「ひと、こと、もの」に働きかけ自己を律して行動できる。					
G 倫理観	自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。					
F チームワーク・リーダーシップ	【市民としての社会的責任】義務と権利を適正に行使しつつ、地域社会に生きる「私」になる					
C 論理的思考力	【生涯学習力】自ら設定した目標(『私』宣言)に対して、それを行動に移し、「つくり、つくりかえ、つくる」の実践力を持つ。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 33 %	発表: %	実技試験: %	その他: 67 %		
特記事項: 「つくりかえレポート」と年間の「週フォリオ」を含めた様々な問題への取り組み状況によって評価する。各AD教員が、AD学生の評価にあたる。「つくりかえレポート」100点満点+「週フォリオ」100点満点評価+「自分づくりをすすめる意欲・態度」100点満点評価の合計を3で割った平均を評価点とする。 本科目は、アクティブラーニングの一環として、前期中にボランティア活動を各学生1回以上行い、後期の「親学」にて活動発表を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:「つくりかえ問題解決技法レポート」は第7回に課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【学科】建学の精神、5S活動、きときとコミュニティ・サポーターとしての社会貢献				4月5日		
②【川目・北澤】地域で活躍できる育成人材像とそのための独自の教育方法				4月12日		
③【宮嶋】ボランティア活動で自分発見				4月19日		
④【特別講義】認知症サポーター養成研修				6月28日		
⑤【特別講義】地域福祉について学ぶ				7月5日		
⑥【特別講義】子育て支援について学ぶ				7月12日		
⑦【特別講義:訪問看護ステーション】在宅ケアにおける地域課題				7月19日		
⑧【学科】卒業生の「つくり、つくりかえ、つくる」に学ぶ 各学科・専攻にて実施 - 日程・詳細は後日揭示 -				7月		
⑨【学科】アカデミック・スキルズ 大学での学び方 各学科・専攻にて実施 - 日程・詳細は後日揭示 -				5月		
使用テキスト:『未来をひらく自己物語Ⅱ ナラティブ・トレーニングのすすめ』せせらぎ出版/『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・本学で大切にしている学びの基礎とあり方を追求する。積極的な「つくり、つくりかえ、つくる」を目指そう。						

幼児教育学科

1年

科目名：親学				担当教員氏名：竹ノ山圭二郎、毛利亘、村田美代子、若瀬淳子、藤井徳子、岡野宏宣、宮嶋潔					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択必修／選択		備考			
1	1年次 後期	総合科目	講義	必修		保育士資格指定科目(選択)			
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード			
主体的に問題を持ち、その解決のために必要な目標を設定し、具体的に「ひと・こと・もの」(地域社会)に関わる行動に移し、自身を「つくり、つくりかえ、つくる」実践力を高める。						教育目標「つくり、つくりかえ、つくる」、『私』宣言、問題解決、社会規範・ルール、義務と責任			
授業科目の到達目標									
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10.					
D 問題解決力		問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。							
E 自己管理能力		地域社会の「ひと、こと、もの」に働きかけ自己を律して行動できる。							
G 倫理観		自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。							
F チームワーク・リーダーシップ		【市民としての社会的責任】義務と権利を適正に行使しつつ、地域社会に生きる「私」になる							
C 論理的思考力		【生涯学習力】自ら設定した目標(『私』宣言)に対して、それを行動に移し、「つくり、つくりかえ、つくる」の実践力を持つ。							
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	33 %	発表：	%	実技試験：	%	その他：	67 %
特記事項： 「親学レポート」と年間の「週フォリオ」を含めた様々な問題への取り組み状況によって評価する。 各AD教員が、AD学生の評価にあたる。「つくりかえレポート」100点満点評価＋「週フォリオ」100点満点評価＋「自分づくりをすすめる意欲・態度」100点満点評価の合計を3で割った平均を評価点とする。 本科目は、アクティブラーニングの一環として、前期中に行った各学生のボランティア活動の発表を第8回目に行う。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：「つくりかえ問題解決技法レポート」は第6回に課す。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：									
授 業 計 画				日付	事前・事後の学習課題				
①【竹ノ山】親学とは				10月25日					
②【村田】親について				11月1日					
③【毛利】親学の実践：親自身が成長するために				11月8日					
④【学科・キャリア開発支援課】これからの「私」の展望(進路ガイダンス)				11月29日					
⑤【若瀬】親学の実践：子どもの人間性をはぐくむために				12月6日					
⑥【藤井】胎児期・乳児期・幼児期				12月13日					
⑦【岡野】児童期・思春期				12月20日					
⑧【宮嶋】ボランティア活動を通しての「私」の育ち(ボランティア活動発表)				1月17日					
使用テキスト：「親学」の教科書 ー親が育つ 子どもが育つー (PHP研究所)、「親学」学習ワークブック(浦山学園出版部)				その他参考文献など：					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・本学で大切にしている学びの基礎とあり方を追求する。積極的な「つくり、つくりかえ、つくる」を目指そう。									

幼児教育学科

1年

科目名： 富山コミュニティー論				担当教員 氏名： 石津、山本、小川、岡野、藤井、霧本		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	1年次	後期	総合科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
主体的に地域の課題を学び、その解決のために必要な目標を設定し、具体的に「ひと・こと・もの」(地域社会)に関わる行動に移し、自身を「つくり、つくりかえ、つくる」実践力を高める。						教育目標「つくり、つくりかえ、つくる」、「私」宣言、地域社会に生きる「私」、実践躬行
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10.	
D 問題解決力			問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。			
E 自己管理能力			地域社会の「ひと、こと、もの」に働きかけ自己を律して行動できる。			
G 倫理観			自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。			
F チームワーク・リーダーシップ			【市民としての社会的責任】義務と権利を適正に行使しつつ、地域社会に生きる「私」になる			
C 論理的思考力			【生涯学習力】自ら設定した目標(『私』宣言)に対して、それを行動に移し、「つくり、つくりかえ、つくる」の実践力を持つ。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %		レポート: 50 %		発表: 20 %		実技試験: %
その他: 30 %						
特記事項: その他については、授業への積極的な取り組みとグループへの貢献度によって評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【各学科】学修の進め方、地域社会に生きる「私」をつくる						
②【各学科】地域調査の基本について学ぶ						
③【AD】グループ編成、地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成						
④【AD】グループ編成、地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成						
⑤【AD】グループ編成、地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成						
⑥【AD】連携機関との打ち合わせ						
⑦【AD】調査計画の修正						
⑧【AD】地域課題の現地調査						
⑨【AD】地域課題の調査結果のまとめ						
⑩【AD】地域課題の解決策の検討						
⑪【AD】地域課題の解決策の検討						
⑫【AD】学習成果のまとめ						
⑬【AD】学習成果のまとめ						
⑭【AD】学習成果のまとめ						
⑮【全学科】学習成果報告会						
使用テキスト:				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・「地域つくりかえ学」で学んだことに基づいて地域課題に主体的に取り組む。積極的な「つくり、つくりかえ、つくる」を目指そう。						

幼児教育学科

1年

科目名：生涯スポーツ実技					担当教員氏名：小川 耕平	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考	
1	1年次 後期	総合科目	実技	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
生涯を通じ体を動かすための知識と技術を習得する。また、集団で活動することでコミュニケーション能力の構築も実践する					<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツ ・コミュニケーション ・体験学習 	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 5. 7	
A 知識・理解力	生涯スポーツに必要な知識について理解する					
D 問題解決力	様々な状況に応じて各人が判断する能力を高める					
F チームワーク・リーダーシップ	チームメイトと協力して実技を行う					
G 倫理観	スポーツのルールを厳守し活動する					
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 60 %	発表： %	実技試験： 30 %	その他： 10 %		
特記事項： ・基本的に集中講義で行います。日程は決まり次第連絡します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：各自が健康・体力の維持向上の確認を数値で行う						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション・コミュニケーションゲーム				9月4日	事後：自らの体力について理解する	
②体力測定①(シャトルラン)				9月11日	事後：体力向上のための目標設定	
③球技(ビーチボール)：集中講義				1月23日	事後：スポーツ実技の実践と継続	
④球技(ビーチボール)：集中講義					事後：スポーツ実技の実践と継続	
⑤球技(ビーチボール)：集中講義					事後：スポーツ実技の実践と継続	
⑥スポーツキャンプ参加事前活動				未定	事後：スポーツキャンプに向けて	
⑦スポーツキャンプ参加：集中講義				未定	事後：スポーツキャンプしての感想	
⑧スポーツキャンプ参加：集中講義					事後：スポーツキャンプしての感想	
⑨スポーツキャンプ参加：集中講義					事後：スポーツキャンプしての感想	
⑩スポーツキャンプ参加：集中講義				未定	事後：スポーツキャンプしての感想	
⑪スポーツキャンプ参加：集中講義					事後：スポーツキャンプしての感想	
⑫スポーツキャンプ参加：集中講義					事後：スポーツキャンプしての感想	
⑬スポーツキャンプ参加：集中講義				未定	事後：スポーツキャンプしての感想	
⑭体力測定②(シャトルラン)					1月15日	事後：体力の変化について確認する
⑮振り返り				1月22日	事後：スポーツ理論(2年次)の確認事項	
使用テキスト：必要に応じてプリント配布				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・運動のできるシューズ(内履き・外履き)、スポーツウェアを必ず着用すること。 ・アクセサリは安全のために外すこと。 ・1泊2日でスポーツキャンプを実施しますので別途費用が必要になります(日付は未定)。						

幼児教育学科

1 年

科目名: 基礎英語				担当教員 氏名: 高島 彬	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	1年次 後期	総合科目	演習	必修	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
幼児英語教育の現場で即戦力で使用できる英語力と教授法を体得する。					発音、チャンツ、歌、ゲーム、保育に関する表現、読み聞かせ、教材製作、
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8.	
B 専門的技術	自分自身の英語をブラッシュアップしながら、子供たちに楽しく英語に触れてもらえるように、英語を教える技術も身につける。				
H コミュニケーション力	日常生活や教室内で実際に使用できる英語表現を正しい発音で身につける。				
A 知識・理解力	基礎的な英語表現を身につけ、幼児教育の現場で使える英語力を身につける。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 60 %	レポート: %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 20 %	
特記事項: 日頃のペアワークなどへの積極的な参加が求められる。(「その他の部分」が平常の活動点)					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第8回、第14回。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 適宜採点し返却する。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①授業概要、自己紹介活動			[事後]自己紹介に使われる表現の復習		
②英語の発音の基本1 (早口言葉、歌、チャンツ)			[事後]早口言葉、歌、チャンツを練習		
③英語の発音の基本2 (早口言葉、歌、チャンツ)			[事後]早口言葉、歌、チャンツを練習		
④英語の発音の基本3 (早口言葉、歌、チャンツ)			[事後]早口言葉、歌、チャンツを練習		
⑤保育に関する表現1			[事後]保育に関する表現の復習		
⑥保育に関する表現2			[事後]保育に関する表現の復習		
⑦保育に関する表現3			[事後]保育に関する表現の復習		
⑧まとめ			[事前]これまでの範囲を復習		
⑨日本昔話絵本作成プロジェクト1 (発音練習)			[事後]教科書を音読		
⑩日本昔話絵本作成プロジェクト2 (翻訳1)			[事後]重要表現の復習		
⑪日本昔話絵本作成プロジェクト3 (翻訳2)			[事後]重要表現の復習		
⑫日本昔話絵本作成プロジェクト4 (絵本作成)			[事後]発表の準備		
⑬日本昔話絵本作成プロジェクト5 (絵本作成)			[事後]発表の準備		
⑭まとめ			[事前]これまでの範囲を復習		
⑮まとめと解説、発表会			[事前]発表の準備		
使用テキスト: The First Drop of English -Third Edition- Junko Chujo				その他参考文献など: 「保育の英会話」赤松直子・久富陽子(萌文書林)	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 毎回の授業に必ず英和辞書を持参すること。(電子辞書使用可、携帯電話の辞書使用不可)					

幼児教育学科

1 年

科目名: 情報処理 I					担当教員 氏名: 中野 慎夫	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	総合科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
近年の医療・福祉の現場において、電子カルテ等をはじめとして急速に情報化が進み、情報化スキルの必要性が高まっている。この科目では、コンピュータやネットワークの基本知識を学習し、各種ソフトウェアの基本的な活用能力を演習をとおして修得する。					コンピュータ、ネットワーク、ソフトウェア、ワード、パワーポイント、エクセル	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (短縮マトリックスで示される番号)		1. 2. 8.	
A 知識・理解力			<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ、ネットワークの基礎知識、情報リテラシーを理解する。 ・Windows7の基礎知識を学習する。 ・文書作成ソフト「Microsoft Word」、プレゼンテーションソフト「Microsoft Power Point」、表作成ソフト「Excel」の基本操作を修得する。 			
D 問題解決力						
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: %	発表: %	実技試験: 50 %	その他: 50 %		
特記事項:						
<ul style="list-style-type: none"> ・上記、「その他」では授業の態度、授業中の課題演習の提出状況などで評価する。 ・目標とする活用能力の習得のためには、授業外の予習・復習が不可欠であり、アクティブ・ラーニングとして学生が主体的に関わる意識を持つことを重視する。 						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業中後半に課題演習を行う。また授業期間の中間と最後に実技試験を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 授業中に出す演習課題については提出時に学生の前でチェックする。また実技試験については採点をして返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
① コンピュータとネットワークの基礎知識の理解				【事前】インターネットについて調べる 【事後】①の復習		
② 情報システムの基礎知識の理解				【事前】情報のセキュリティについて調べる 【事後】②の復習		
③ Windows7の基礎知識と基本操作の理解				【事前】Windowsについて調べる 【事後】③の復習		
④ Wordによる文書作成(基本的な文字入力)				【事前】Word教科書を読む 【事後】④の復習		
⑤ Wordによる文書作成(案内状などの作成)				【事前】Word教科書を読む 【事後】⑤の復習		
⑥ Wordによる文書作成(表作成)				【事前】Word教科書を読む 【事後】⑥の復習		
⑦ Wordによる文書作成(高度な書式設定)				【事前】Word教科書を読む 【事後】⑦の復習		
⑧ PowerPointによる資料作成(箇条書き機能など)				【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑧の復習		
⑨ PowerPointによる資料作成(図の作成)				【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑨の復習		
⑩ PowerPointによる資料作成(プレゼン資料の作成)				【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑩の復習		
⑪ PowerPointによる資料作成(高度なプレゼン資料の作成)				【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑪の復習		
⑫ Excelによる表作成				【事前】Excel教科書を読む 【事後】⑫の復習		
⑬ Excelによるグラフ作成				【事前】Excel教科書を読む 【事後】⑬の復習		
⑭ Excelによるデータベース作成				【事前】Excel教科書を読む 【事後】⑭の復習		
⑮ Word、PowerPoint、Excelの基本操作を再確認する。				【事前】Word、PowerPoint、Excelの復習をする 【事後】⑮の復習		
使用テキスト:「できるWord2013」、「できるPowerPoint2013」、「できるExcel2013」(インプレスジャパン)				その他参考文献など: 情報リテラシー(noa出版) Officeソフトで作る文書ドリル全55題(noa出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業での演習時間が少ないので必ず予習・復習を行うこと。						